

平成30年6月12日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 坂口正勝
3番 猪村利恵子
5番 江口康成
7番 上田雄一
9番 吉川里己
11番 松尾陽輔
13番 石橋敏伸
15番 松尾初秋
18番 牟田勝浩

副議長 川原千秋
2番 豊村貴司
4番 山口等
6番 吉原新司
8番 古川盛義
10番 末藤正幸
12番 池田大生
14番 宮本栄八
16番 山口昌宏
20番 江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 末藤彰彦
次 長 江上新治
議事係 長 吉永和彦
議事係 員 田中弘一

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
副	市	長	浅	井	雅	司
教	育	長	浦	郷		究
総	務	部	水	町	直	久
企	画	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	神	宮	一	文
営	業	部	松	尾	和	久
福	祉	部	岩	瀬		清
福	祉	部	牟	田	由	紀 子
こ	ど	も	松	尾		徹
こ	ど	も	山	口	泰	光
ま	ち	づ	庭	木		淳
ま	ち	づ	高	倉	秀	昭
会	計	管	末	藤	勇	二
上	下	水	今	福		剛
総	務	課	川	久	保	和
財	政	課	山	崎	正	幸
企	画	政	松	尾	謙	一

議 事 日 程 第 3 号

6月12日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成30年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
5	7 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. まちづくりについて
6	3 猪 村 利 恵 子	～市長の政治姿勢について～ 1. にぎわいづくりについて 2. エリア開発について 3. 子育て政策について 4. 交通政策について
7	18 牟 田 勝 浩	1. ハブ都市構想について 1) 観光 2) エリア開発 2. 周辺部対策について 3. 道路交通行政について 4. 教育について
8	14 宮 本 栄 八	1. アセットマネジメント関係 1) 計画作成や減面積方法 2) 市営住宅 2. 庁舎等の管理 1) 入札 2) IT化 3. 市内の道路整備 1) 主要道路計画 2) 国県の整備状況 4. 競輪事業 1) 宿舎等の建替え 2) お客様サービス向上 5. 教育子育て 1) 官民一体型学校の今後 2) 保育所定員

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

それでは日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

それでは、7番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより7番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

今回も、武雄の今後の方向性についてということで通告をさせていただいております。

今回は、大きい項目としてはまちづくりについて行わせていただきますが、中身についてはこのような内容で進めさせていただきたいと思います。

まず、新庁舎開庁について触れていきたいと思っておりますが、ようやくこの議場も新しく完成して新しい議員も、そしてまた執行部のほうも新しいメンバーで行うわけでありまして、まず4月21日、落成式が行われました。オープニングイベントとしては、地元の柄崎太鼓の皆さんにオープニング演奏を行っていただきまして、その後式典に入り、武雄中学校の生徒さんでしたっけ、——ですね、司会を務めていただくというような格好で進んでおり、それから、小松市長においてこの庁舎の概要の説明が行われたところでありまして、それから、5月7日に開庁しまして、執務がここからスタートをしたわけでありまして。

この庁舎がようやくでき上がりますと、これからいろんなところが改善するところもあるかもわかりません。

先ほど、開会前にもこの議場でのいろんな設備等々でいろんな話が出ておりましたけど、私自身も今回、年度初めということもありまして、住民票だったり、子どもの、——何でしたっけ、子どもの手当、何やったっけ、——手当等々の申請を行ったところでありまして、何分まだまだこれまでの庁舎の、旧庁舎での話がいろいろとあったわけでありまして、今回庁舎が新しくなることになってさまざまな、もっと改善すべき点は、これまでIT行政推進特別委員会の皆さんを中心にさまざまな議論が行われておりますけれども、昨日の質問を、すみません、私ちょっと聞きそびれてしまいましたけど、いろんな母子手帳だったりとか子どもの医療費の受給資格証だったりとか、そういうのもこれからいろんなアプリを使ってできるんじゃないかなと思うわけです。

今回、住民票を申請する上に当たっても、結局はこれまでと同じようなペーパーに記入をして申請するというふうになっておりまして、もうちょっとそこもIT化も進められるんじゃないかなと。

さらには支払い業務もいろんな、スマートフォンでの支払い等々もできますし、これから

ももっとも I Tを進めていく、武雄市の可能性としてはあるんじゃないかなと思っており、これから議会のほうでもまた I T行政推進特別委員会の皆さんの御活躍を期待したいところであります。

それではまず、庁舎について。今回、私、——一番多いのは、職員の皆さんがとにかく、狭い狭い、せつないというのはよく耳にするわけでありまして。

フロアによっての差も大いにある、感じているわけでありましてけれども、現在、これまではもちろん図面上でさまざまなシミュレーション等を進められてきておりますけれども、実際に庁舎が建って現実とどう違ってきているか、そこら辺さまざまな声があるんじゃないかなと思いますけど、市民の皆さん、そして職員の皆さんの声をどのように吸い上げられているのかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

おはようございます。まず、職員数が全体的に想定よりふえたということが挙げられます。

庁舎外施設から集約を行ったわけですが、その見込みの数に差異があったということもございます。

それから、特に1、2階フロアに人員配置が多くなりました。窓口のワンストップ化を実現するためには、どうしても関連部署をワンフロアに集めて配置する必要がありましたので、当初の想定よりも窮屈な状況となっているものでございます。

職員の声、それから市民の皆さん方の声をお聞きしながら今後も改善をまいりますが、現在といたしましては、できるだけ可能な範囲の中でデスク間の調整を行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

人の想定がちょっと違ったというような話ではありましたが、やはりいろんな、これから改善すべきところは改善をしていただきながら、よりよいものに、みんなで作っていただければと思います。

今回、新庁舎になってワンストップということで、住民の皆さんが庁舎にお越しになったときに、これまで住民の、申請に来られた方がずっと窓口を転々とされていたのが、今回もう職員さんのほうで行われている、住民の方は申請に来た後はもう椅子に座って待っていただいて対応しているということで、それはそれで本当にいいことをやられていると思うわけですが、やはり I Tを進めていかないことには職員さんが今度はどンドンどンドンあち行きこち行きってというような格好になるわけですので、やはりももっともこの I Tを

使って、要はもうデータを庁内で管理——どんどんどん飛んでいって、必要なものがすべてそこで各課から全部集めるというような格好の仕組みをぜひ実現していただきたいなと思っております。

それでは次にいきますけれども、5月12日開庁記念イベントが行われました。もうこの場での質問でも出ておりますけれども、竿燈まつりであります。

秋田竿燈まつり、本当にすごいにぎわいでした。私もこころで生まれ育ったものとして、この道がこんだけの人間がいて、もう私も鳥肌がたつとか何とかですね、もうすごいものだなと思ったわけです。

生まれ育ったまちでしたけど、ここの道が通行どめになったのはほとんど記憶がなくて、何かこの画像が、——私、この写真、自分で撮ったんですけど、一番好きな写真で、もう本当に武雄の底力を感じた1日だったんです。

本当にこれは担当の課の職員の皆さん、課長さんを中心にでしたか、本当に素晴らしい企画、そして運営をやっていたんじゃないかなと思っております。武雄温泉の春まつりにこんだけの御来場者がお越しただければ裸神輿も本当に盛り上がるんじゃないかなと思いつつ、うらやましいなと思いつつ見ていたところですけども。

今回、昨日の答弁にもありました経済効果という質問があったときに、経済効果が5億円という答弁があったと思うんですね。すみません、私のちょっと多分聞き間違いだと思うんですけど、その宣伝効果を4,500万円というふうに答弁をされたと思うんです。合計すると9億円というような話があったような感じがしたので、ちょっとそこも私の計算がおかしいのかなと思いつつ聞き及んでいたんですけど、それとあわせて主催者発表が8万人と。

一番最初に私見たのは、この議場にいる議員のフェイスブックを見て、ああ、8万人だったんだと思いつつ見ていたんですけど、この8万人、本来私たち、まあ仕事上いろんな集会等々で何人来たという発表をしないといけない場合に、私たち本当に一人ずつ数ば数えよるわけですね。それとかもう多かたらあいている席を数えて立ち見の数をプラスマイナスしたりしてやっているんですけど、8万人となるとさすがにどういうふうにこれ数えるんだろうなって思いつつながら。この8万人というのはどういう算出方法をもって8万人なのか。

私個人的に8万人もいたという話ではありません。

逆に佐賀新聞の有明抄にあったように、あれは8万人ではきかんやっつとやろうってというような感覚が、むしろそっちなんですけど、ちょっとまずこれをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

おはようございます。まず最初に、経済効果のほうから御答弁申し上げたいと思います。

8万人の来場がございまして、観光消費額に換算いたしますと約5億円ということでござ

います。新聞、テレビ、雑誌等のメディアに対する広告効果を計算して把握している分が約4,500万円。この2つを合わせまして経済波及効果という係数を出す算式がございますけども、それに当てはめると最終的に約9億円ということで経済効果を9億円と言った次第でございます。

もう一点の8万人の算出根拠はということでございますけど、当初は演技会場の全長約900メートルから来客数3万人程度の想定をして計画書を策定をしておりました。

当日は天候もよく、昼間からの各会場でのにぎわいや滞留者増加の勢い、それから竿燈演技本番の見物客の列と人のたまり具合、演技会場以外の場所、例えば川端通りとかでの人の混み具合等、すべてが想定を超える状況であったため、最終的に当初想定人数の2.5倍超の8万人として発表したところでございます。

なお、さっき議員おっしゃったとおり、5月14日付の佐賀新聞では8万人と発表したが、それ以上ではなかったかと書いていただいたことで、うれしい限りでございます。

しかしながら、このように想定を超える来場者があったにもかかわらず、1件の事故もなく終わったことに感謝申し上げる次第でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

なるほどですね。5億円足す4,500万円と、それをもとに9億円っていうことですね。

私、5億円と4,500万円そのまま足したら5億4,500万円で、何でここ9億円になるとかになって。すみません、頭が悪くて。そして、8万人の算出根拠、今いただきました。

本当にこのにぎわい、武雄のまちが本当に活気づいたところでうれしい限りだったんですけど、私が今回のこの竿燈まつりで、——今回私、質問しようとしていたんです。秋田からあんだけの人に来ていただいて、武雄から行かなくていいんですかというようなところを質問しようとしたら、今回上がっていますのでもうそれはもちろんしませんけど、一番市民の皆さんから多いのは今度いつすつとってというのが一番聞かれるんですよ。これは毎年でもしてほしかってという人ももちろんいます。

これ、でも5年後とか10年後とかこう間隔をつくってでも次いつくってなあぎ、もう私たちはそれば待とうとがわくわくするっていう声もいっぱいいただいたんですよ。

すみません、それは私もちょっと答えきらんですっていうことで、今度質問ばしますって、市長がどういう考えなのか聞いてみたいと思いますっていうことで言っていますので、ちょっとここら辺を市長の考え、思いをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。今回、秋田竿燈まつりは2年前から誘致を行っていきまして、まさに明治150年の節目の年に何とか来てもらえないかということで実現をしたということでございます。

私も同じような声をいただいきまして、次はじゃあ25年後かという話もよく言われるんですけども、個人的な思いとしてはやはり25年後といわず、それよりも早くもう一回来てほしいなというふうに思っているところであります。

そのためには、これまで市民レベルで続いてきた秋田との交流、これをさらに太くして、そして深くしていくというところがまずもって大事だというふうに思っておりますので、私としてはやっぱり、もう一回見てみたいという気持ちがある。そのためにも、やはり秋田との交流、まずはこれをしっかりと強めていく、ここを大事にしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

結局、じゃあいつってというのは、まあ25年後まではいきたくないよと、なるべく早い段階でまた来てほしいなということが思いだと今、私は感じたところです。

今回のこの秋田竿燈まつりは、——私、歓迎レセプションで担ぎ手の皆さんと物すごくみんな仲良くなったんです。一緒に酒を酌み交わしながら。

いろんな話を聞いたら竿燈のこのちょうちんが、秋田の本場の竿燈まつりだと300本くらいこれが上がるらしいですね。これがいろんな各地区地区の団体で1本、だからここに書いてある漢字はその地区の名前を一字とったような感じで書いてあるという話も伺いました。

ですのでこれ武雄でも、武雄の武の字でも雄の字でもつくって、武雄で竿燈を1本こう、竿燈担ぎ隊をつくってもおもしろそうだなと思いながら、まあそれをどうこう言うわけではありませんけど、ぜひそういうのも考えてほしいなと思います。

この秋田竿燈まつりにかかわられた、観光課の皆さんを中心に、かかわられた方すべてに本当に感謝したいと思います。

それでは今回この庁舎ができたことによってこれからの、これまでの旧庁舎の跡地の活用についてであります。

これまでもこの議場でも質問をたくさんさせていただきましたけど、これが旧庁舎の敷地の航空写真であります。毎回、毎回、この話もさせてはいただいておりますけど、今回ちょっとお伺いしたいのは、恐らく今回この庁舎ができたのはこの旧庁舎、旧庁舎の耐震で結局耐震補強か、移転再築か、現地再築かの3択で今回ここに移転新築というふうな結論に至ったわけでありまして、もちろんこの旧庁舎はこれから解体をされると思います。

ただ、この旧庁舎の解体に伴ってこちら辺の部分が私もちょうと把握してなくて、ここにちょうど、敷地のちょうど中心部に今もまだありますけど、車庫等々もありますよね。それ

からここに電算センターといいますか何かこういう、杵藤地区広域市町村圏組合庁舎等々もあります。ここに車庫、屋根つきの車庫も1個、——あれ車庫ですよ。

そこら辺もあって、これからの解体をまずどのようにこれが解体進むのか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

旧庁舎につきましては、解体をして一旦駐車場として整備することを既に報告をさせていただいているところでございますが、議員御質問の倉庫と車庫等、これについても解体を同時に行います。

それから電算センター横の駐車場につきましては、これまでどおり職員駐車場として使用いたします。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

この倉庫、車庫も一緒に解体をするということですね。

ここにそしたらもう1本、道が入っているんですけど、この道はこのまま生かしていくわけですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

旧庁舎と第3駐車場に挟まれております市道についても一旦廃止ということも検討すべきだというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ここに1本道が入っている部分も、廃止を含めて検討していくということですね。

そしたら結局解体が終わった後の駐車場整備というのは、一旦駐車場にすると言いながらも、これが全部駐車場になるわけです。

今後の活用をですね、——私も今回の自分の選挙を通してたくさんの市民の皆さん、特に中心部の皆さんからの声を聞いたんですけど、やはりここは武雄の一丁目一番地の土地なんですよ。まとまったところでもあります。

私はここに人が集まる仕組みをしないといけないと思うわけでありまして、一旦ここを駐車場で仮舗装をするという報告を委員会の中でもいただいておりましたけど、やはり仮舗装

と普通の本舗装って私たちも全然見分けもつかんぐらいなんですよね。

一回舗装してしまうと、せっかく舗装したところばまた堀りよんさあよというような話も、いろんなところで出てきたりもするので、私もここをぜひ人が集まる仕組みをつくっていかんといかんと思うわけです。

今回、選挙戦を通じてもいいアイデアをいただいたんですけど、やはりこの土地に高齢者の皆さんが住んでいける。今いろいろ高齢者の皆さんの免許の返納制度等々いろいろあるじゃないですか。でも今、免許を返納しても武雄では車がないとなかなか生活がしづらいという声がたくさんあるわけです。

ですので、やはりここに、武雄市の中心部に高齢者の皆さんが住んで、買い物が北部商店街でもできるように、観光客だけではなくて、地元の皆さんが歩いて行けるような仕組みづくりを、——本当に中心部には今後こんだけの広大な土地はもう出てこないと思うわけでありまして、ぜひそこを考えていただきたいと思うわけです。

それも含めて、今後の跡地活用の進め方、検討の進め方をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

新庁舎がオープンをいたしまして、新庁舎の駐車場不足といった声も寄せられている中で、これから、この庁舎一帯の駐車場確保の必要性やそうした場合の駐車場の管理の方法、あるいは中央公園との機能連携、市街地の活性化などさまざまな条件を整理して具体案につなげてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

今回市民の皆さんの意見の中では、駐車場が必要であるのであれば、この敷地の一部に立体駐車場をつくってそれを有料にすればいいじゃないかというような話もいただいたんで、なるほどそうだなと、いろいろ検討の余地もあるんじゃないかなと思ったわけでありまして。

ぜひ、本当にこれ武雄の一丁目一番地、皆さんが集まるような仕組みづくりを考えないと、北部商店街、また飲食店街も活性化につながっていかないと思いますので、ぜひそこら辺を考えていただきたいなと思ひまして、次の質問に移りたいと思います。

スポーツ施設整備計画については、さきの改選前の3月議会において質問をさせていただきました。

これまで総合運動公園とした一体的な施設でのスポーツ施設を考えていくのか、それとも各競技ごとに、さまざまな場所へ独立した構想を持っていくのか、このときの質問の答弁としては、これからこれもあわせて考えていくというような答弁でありました。

恐らくもうこれについては、費用対効果を鑑みて今後計画を、同様に行っていきますという答弁が出てくるだけだろうと思いますので、今回これはちょっと置いておきますけど。

これも市民の皆さんからたくさんの声をいただいたんですけど、パークゴルフですね。特に高齢者の皆さんが生きがいづくりとしても本当に、——これ北海道で生まれたらしいですね、パークゴルフというのは。既にもう全国に120万人以上の会員さんがいらっしゃるということを伺いました。

この公認コース、武雄では——見えないと思います。公認コースは武雄にはありません。佐賀県の、富士町にあるわけですけど、九州の公認コース、沖縄を除けばこれだけの数があるわけですけど、佐賀市はこの神水川パークゴルフ場が公認として認められているのは一つだけであります。これもちょっと見えづらいと思いますので、先に進みますけど、この神水川パークゴルフ場はコースが全部で5コースあって45ホール、これが初心者から中級者、上級者までさまざまなコースを設置されているわけであります。

佐賀県内にはほかにも唐津に桜ヶ丘パークゴルフ場というのがありまして、これが全部で18ホール設置されておりまして、白石にも設置がされておるわけです。でも公認コースではありません。

武雄市にも高橋にできる場所がありますけれども、今回、山内にもあったパークゴルフ場がもうやまったらしかですね。ですので、これまで一生懸命、山内のほうも使ってやられていた方がもう行き先もなくなって本当に困っておられる話を伺ったわけです。

高齢者の皆さんは、平日だろうが何だろうがパークゴルフの大会のああとは行くものど、というような話もいただいたりするわけでありまして、この武雄の、観光のまちの武雄に公認コースを望む声が非常にたくさんあるんだ、こんなに多くあるんだなと思うのがあって、パークゴルフの公認コース設置を望む声がたくさんありますので、そこをどう考えられているか、答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山口こども教育部理事

○山口こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。一生涯にわたってだれもが気軽に楽しむことのできるスポーツとしてパークゴルフが楽しまれております。

まずは議員御提案の、公認コースの新設についての可能性について、各方面から話を伺いながら調査をすることとしたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

いいと思います。ありがとうございます。

調査をして、検討ばして行って、検討をするっちゅうのはしないちゅうことになるけん、調査をしていただいて、一緒に調査をしていきましょうよ。

この声が本当にたくさん、武雄市民の皆さんに声がたくさんありますので、一步ずつでも前に進められるようにぜひ手と手を取って、議会と一緒に、執行部と一緒にやっていきたいなと思っております。

それでは次に、新幹線についてに移りたいと思います。

知事、フル規格違和感って。もうがっかりですもんね、もう。山口知事は県議会の冒頭で、県の財政運営に大きく影響する莫大な費用を伴うもので、県民のために取り組んでいる施策に多大な影響があると強調したという記事があります。

これは国交省のデータを拝借したものでありますけども、新大阪駅を中心に、もちろん西からは山陽新幹線が入っておりますけど、新大阪より東に行けばもうリニアの話ですよ。

今、与党PTで西田先生が座長になられているという情報をちょっとつかんだんですけど、そこら辺もこの北陸新幹線敦賀ルートの、新大阪駅からのルートはもう、恐らくどんどん前に進んでいくと思います。佐賀はもう完全に乗りおくれていくんじゃないかという危機感を覚えているわけであります。

ここで、これまでのいろいろな情報を踏まえて、武雄はやはり、——小松市長がハブ都市構想化を目指しているこの武雄のまちで、改めて市長の考えをお伺いしたいと思います。

フルなのかミニなのか、フリーゲージなのか。フリーゲージはもう、恐らくもう無理だとは思いますが、そこら辺を踏まえて答弁を願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先日、大阪府の泉佐野市に行ったんですけども、武雄温泉駅を朝7時台の電車に乗って行きました。やはり乗りかえがあると、ああ遠いなという感じがして、これがやっぱり一本でつながっていると、大阪の方から見ても非常に心理的な距離も近いだろうなというふうに感じたところです。

まさに議員おっしゃるとおり、今後リニアが進んで東京名古屋が40分、そしていずれは東京大阪が67分で結ばれると、いわば巨大な経済圏ができる中で西日本は置いていかれるんじゃないかという、私はそういうふうな危惧をしております。

しっかりと一本の筋を通して、そして西日本の経済圏をつくる。あとはやはり観光という点が大事ですので、関西圏からの集客を図る、そしてまたインバウンドにも対応する。そういった意味では、私はやはり従来申し上げておりますフル規格というのでないとそれは達成できない。ミニ新幹線は秋田、山形の状況を見ている、私は中途半端だというふうに感じております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございます。

今回テレビで、佐賀テレビが報道をしていたのを、——写メなんですけど、フリーゲージトレイン、国交省の試算で建設費1,400億円、年間収支約20億円の赤字。ミニだと建設費2,600億円、年間収支約2億円黒字。フル規格だと建設費6,000億円かかりますけど、年間収支約88億円の黒字という試算が、国交省から出たのを報道がされているわけです。

今回、国交省からのデータを見ますと、——ちょっと見づらいという話でしたのでちょっと大きくしました。よかでしょうか。国交省の文を見やすくして、ちょっと私が打ちかえましたので、これと、これは間違いはないと踏んではおりますけど、もし万が一間違いがあったらごめんなさい。

ここでちょっと注目していただきたいのが、これまで佐賀県のスタンスであったのはフリーゲージによる山陽新幹線の乗り入れが条件だという話があったわけですよ。

でもこれ、国交省のホームページですよ、これ。ここに、小さいほうで間違いなくなしと書いてあるわけですよ。山陽新幹線への乗り入れは、フリーゲージはもうなしって、はっきりここになっているわけです。もちろんその注釈には、ちょっと小さい字で書いてはあるんですけど、もう運営主体であるJRが無理だというような話をしているので、というようなことが書いてあったと思うんです。すみません、どこに今いったかわからないんですけど。

ミニ新幹線だと山陽新幹線乗り入れあり、フルでもあり、もちろん。ここで、佐賀県が最初に話をしていて6者合意がもう完全に崩れているわけですよ。完全に崩れている。

さらにこの開業見込み、先ほどのテレビの写メを3つ出しましたが、フリーゲージだと31年度着工条件でおよそ9年後の39年度開業見込みと。31年度着工なんか恐らく無理だと思うんです、来年度なんて。

ミニだと35年度着工条件として、——ここに小さく書いてあったんですけど、44年、48年、複線三線軌だと48年度という試算になっています。フルだと、35年度着工で、約12年ですね。

ここでまた問題なのは、ミニ新幹線でいけば現在の線路を工事をしないといけないので、そこにバスの代替だとか何とかというのがどんだんだんだんだその注釈に書いてあったわけですよ。注釈、別のページやったですかね。

もうとにかく県が言っていることと現実と、全く私は整合性がとれてなくなったんじゃないかなと思うわけです。

ちょっとここら辺をまずお伺いをしたいと思います。市の見解を。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。議員御指摘のとおり、ミニ新幹線とフル規格ともに、地方負担、それから投資効果等の諸問題がございます。

速達性、安全性、定時制にすぐれ、広域交流の人口の拡大という効果を発揮できるのはフル規格での整備だと存じております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんです。もうミニ新幹線もいろんな不具合も報告をされておるわけでもんね。ちょっともう一回、別の視点からいきますけれども、費用負担の面ですよ。

これもちょっと見にくいので大きくここで出しますけど、フリーゲージの今の、これまでの費用負担プラスの部分です。ここが700億円という数字がもともとあったわけです。それプラスの500億円、プラスの1,400億円、プラスの5,300億円。

今回フル規格だと、もともとあった700億円をプラスして総事業費は6,000億円という試算がなされておりますけど、ここでフル企画の追加負担金の詳細をちょっとお伺いをしたいと思いますけど、県が言っているのはこの6,000億円に対しての3分の2が国で、3分の1が地元負担ということで2,000億円という話が出ておりますけれども、改めてその追加負担金の詳細、フル規格、追加負担金、トータルの地元負担金の詳細をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

整備新幹線に係る負担割合と申しますのは、JRの貸付料等を除いた残りを国が3分の2、地方公共団体が3分の1負担することとなっております。

今回、佐賀県が示されました2,000億円は、JRからの貸付料等が不明だったために算定に加味されておらず、3月30日に国土交通省から与党PT検討委員会に示された新鳥栖－武雄温泉駅間をフル規格で整備した場合の事業費6,000億円に負担割合で計算いたしました2,000億円を示されているものと存じております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

そうなんです。6,000億円の地元負担が3分の1で2,000億円という話です。

6月9日の佐賀新聞さんでありますけれども、佐賀の負担軽減検討、与党委員会、JRと長崎協議へという話の記事が出ておるわけですけど、ここに、前回の検討委員に出席した佐賀県の山口知事は、全線フルで整備した場合、総事業費6,000億円に対して県の負担額は歳出予算ベースで約2,400億円に上り、長崎県の約1,000億円を上回るとする独自の試算を提示したと。

これでもですよ、この長崎の1,000億円というのは、JR貸付料を想定してその分を含めた上での1,000億円なんですよ。佐賀県が言っているのは、そのJRの負担額を含めずに話しているんで、もう何か、フルは物すごくお金がかかるというような情報操作にしか私もなかなか感じない部分があつて。

これ福井県の建設費の負担イメージの図なんです。ちょっと見にくいかもわかりませんが、福井県の、先ほど新幹線の図があつた部分のこういうところですね、この辺の部分の新幹線です。負担総事業費は7,800億円。これに対してのJRの貸付料はおおよそ約3,900億円ぐらいだろうと。

このJR貸付料というのは各自治体でオープンにされておられませんので、想定、あくまでもプロ野球の年俸と一緒にわかりません。推定年俸幾らという。

その部分のというぐらいの感覚でしか見れませんので、恐らく佐賀のJR貸付料もそこがはっきりしない、表にも出ない。だからこそ入れてなかつたんだろうと思うんですけど、この7,800億円の大体、おおむねですよ、これはもうもちろん、これからの交渉によるものという話を伺っておりますので。でも、それでもおおむね半分程度はリース料が入っているわけですよ、貸付料が。

だから、この残りの分の3分の2が国負担、3分の1が地方負担というような図式になって、この3分の1の1,300億円が地方負担となれば、これから地方交付税がまた措置がされて、残りの分が実質の地方負担という図式になるわけです、どこでも。

だから改めてちょっとお伺いしますが、ここの金額云々はちょっと置いといたとしても、JR貸付料が入る前提でこの計算方式、おおむねのこの条件というか、そこら辺はこっちで間違いないんですよ、イメージとして。まずそれをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

これは繰り返しになりますけれども、新鳥栖から武雄温泉間をフルで整備したときには6,000億円かかりますと。それをだれが負担するのか。JRの貸付料を抜いた分の3分の1を地方が負担をするということで、佐賀県は6,000億円で貸付料がわからないので、その辺はわからないから6,000億円のざっくりもう3分の1、2,000億円かかりますねというふうに主張はされているんだと思います。

これについては、先日の与党PTでも、国土交通省も佐賀県の試算は正確ではないというふうに説明をしまして、与党PTの座長も同様の発言をしているということでございますので、やはり2,000億円負担というのは、私はもう正確ではないと。佐賀県の負担はそれよりも、——少なくともわかっているのは確実に減るところだけは間違いないというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

もちろん負担は当然出てくるわけでありまして、やっぱりそうなんですよね。

先ほどの市長の答弁の中でも、与党PTの話が出ました。

これは県選出の古川康代議士のフェイスブックから引用したものであります。

6月8日7時45分に、今朝は新幹線西九州ルート検討委員会。こまちランチというミニ新幹線型のお弁当をいただきながら——ここは笑えるですよ。ミニ新幹線の弁当ば食べながら、新幹線のフルばどうするかとかいう話をしよるわけですから。

ここでフェイスブックに上げられておりましたので、これをちょっと拡大を。もちろん、御本人の許可はいただいておりますけど。

このようにJR貸付料、国、長崎、佐賀の負担割合って、イメージがこれですね。こっちかな。

実際の負担イメージは、貸付料は金額確定していませんから、貸付料はもちろん金額もありませんけれども、国の負担、それから交付税措置、交付税措置後の実質負担額というような格好で、佐賀県は2,000億円っていうと全く違うですもんね。

もちろん、その誤差はあると思うんですよ。2,000億円と言ったのが、結局2,200億円になりました、1,800億円で済みました、そういうのはもちろんあると思うんですけど、そもそもの金額がまず算定根拠が違うというところがあるわけでありまして。

今回、福井県のイメージ図、先ほどの図ですね、これと先ほどの古川先生のフェイスブックの画像を照らし合わせて、おおむねですけど、——これもちょっと見づらいと思います。——この6,000億円の新幹線工事費、これも約ですよ、全部約です。これはもうあくまでも仮定の図式にはなりますけど、おおむね2分の1はJR貸付料が入ってくるんじゃないか、その残りの分を3分の2、3分の1で地元負担がおおむね1,000億円程度じゃないかと。

地方交付税の措置が約この程度、地方債の60%分の措置がなされるということで、実質佐賀県の負担は460億円とか、——これはあくまで仮定ですからね。もちろん、これは誤差もありますし、条件がまた変わってくるかもわかりませんので。

長崎県は、この金額をもっと、負担を減らしてやろうっていうような協議をされているわけですよ。

さらに、固定資産税の収入等々も今後見込めるんじゃないかなと思うわけです。

そういう中で私たちも、——ちょっと一回、ここで質問をしたいと思えますけど、ざっくりイメージの図としては、——これ金額はちょっと置いといたとしても、イメージとしてはもうこれで間違いないんですよ、算定根拠として。

改めてちょっと答弁をお願いしたいと思います。

J R貸付料はおおむね半分程度、程度です。これも交渉次第やけん、金額は言えませんけど。答えられんですか。どがんですか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

今の段階で貸付料等の金額はわかっておりませんが、考え方としては議員がおっしゃるとおりだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

そうだと思うんです。

だから長崎県のほうとも、私たちも県内の市町の議連を立ち上げる世話人会等々も発足をさせていただいておりまして、武雄からも私とか牟田議員、そして杉原議長も何度か引っ張り出して、この会にも参加をしたことがあるわけですけれども、改めてフル規格を求めていくことをその当時また確認をしたところであります。

長崎の先生方、たくさんいらっしゃった会合でもありましたけど、今回、長崎新幹線・鉄道利用促進協議会のほうから決議が出されてこれが可決をされております。

内容としては山陽新幹線への直通運行を実現し、現在整備中の武雄温泉、長崎間のインフラを十分に活用できる最善の選択肢として、フル規格により西九州ルートを整備すること。あわせて、——ここは読まんでもよかったですね。

整備新幹線に伴う地方公共団体の建設費負担について、建設費の縮減を図るとともに国が開発を進めてきたフリーゲージの導入が困難になったという特殊事情も考慮し、負担軽減のための制度を充実、創設すること、以上を決議するというので決議がされております。

もう本当に、佐賀県も本当はこういうのをどんどん出していかないといけない状況にあるんじゃないかなと思うわけですが、もう今、これまでもたくさんいろんな会合、団体等々で市長もいろいろとお話をされてきたと思います。GM21とか、市長会とか、そういういろんな団体もあるかと思えますけど、武雄にとっては5市ネットワーク等々もあります。

ここにきて、もう沿線自治体云々ということではなくてもう県内全域で、やっぱりフルじゃないかならんといかんというような機運を醸成していくことがやっぱり必要なんじゃないかな

と思うわけです。

ですので、県内のほかの首長さんたちと連携をとったりしながらでも結構です。

長崎も、佐賀の負担軽減をしたいけど、いろんな法の縛りもあってということでいろいろ四苦八苦されております。

佐賀も、佐賀がとにかくフルでいいですってというような手を、もうよかですよって、そんなかわり条件をちゃんとこういろんな、佐賀県に優遇してくださいよというような話をもっていく時期に完全にきているというふうに私は思っているわけです。

なのに、新聞報道を見るとかたくなに、フルはお金がかかるということで拒否感、反応をされている方もいらっしゃるわけですけど、佐賀県の今後、武雄の今後を考えるとフルじゃないといけないと思うわけですけど、改めて最後に市長の、この県内機運の醸成等々、これから市長の動き、期待するところでもありますので、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

議員の皆様、そして経済団体等々でも要望、そして動きをしていただいております。

さらに5市ネットワークでも前回、ことしはシンポジウムもありましたけれども、さらにそこを広げていって、さっき議員おっしゃるとおり、県内の市とまちがしっかりとやっぱり議論をすると。

これまでその議論すらできないような環境でした。

武雄市と嬉野市が特にいろいろ言って、そしてほかはなかなか、いやちょっと何とも判断できないですねというような状況でとまっていたんですけども、この前も市長会でも、やはり今後はしっかりと県内の市町、沿線自治体だけではなくて県内の市町でしっかりと話し合っていこうと。そして名称は、そのときは研究会とか勉強会という名前だったんですけども、まずそれをやろうという動きがようやく、小さな一歩かもしれないんですけどもようやく動き出しましたので、そういったところでもしっかりと、——特に私たちは嬉野市さんと主張が、これまで一緒に動いてきたところもありますので、その中でも沿線自治体以外もこの新幹線に対してどのように向き合うのか、そしてそこについては大いに今後議論をして、そういった首長の動きもさらに強めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにおっしゃるとおりだと思います。

国交省の、先ほど表を出したところで、山陽新幹線なし、あり、あり、ありとかっていう表をまたぜひちょっと御確認をしていただきたいと思いますんですけど、フル規格だったら、新鳥栖駅、

佐賀市近郊、武雄温泉駅ってなっとつとですよ。改めてちょっと見ていただければわかると思うんですけども。だから国交省もそれなりにある程度ネタは持つとは何となく感じているところでありませう。

とにかく、まずはその5市ネットワークの沿線自治体で、各場所でも決起大会等々も実現をしてほしいなと思うわけですけど、そういう決起大会の案等々は市長、お持ちではないでしょうか。お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

そこは、嬉野市長さんとそういった話もしていますので、ぜひそういった今後の動き、具体的にどうするかは詰めていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番上田議員

○7番（上田雄一君）〔登壇〕

ありがとうございました。

以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で7番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	9時51分
再	開	10時00分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番猪村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。新庁舎で一般質問、しかも2期目、しっかりと今期も頑張って、一般質問、欠かさずやっていきたいというふうに思っております。

それでは6月議会、また皆さん大聖寺の映像やろうと先輩議員さんからも言われましたけれども、大変美しい大聖寺のあじさい祭り、ぜひ皆様方、山に登ってすがすがしい空気と美しいあじさいを見に行ってください。北方町からも、若木町からも登れます。よろしく願いたします。

それでは、私の一般質問、市長の政治姿勢について。

1. にぎわいづくりについて。

2. エリア開発について。
3. 子育て政策について。
4. 交通政策についての4点でございます。

市長の政治姿勢について、にぎわいづくりについてでございます。

秋田戊辰の役で殉難された佐賀藩士 54 名のみたまの眠る地、秋田市の葉隠墓苑の写真を議長からいただきまして映らせていただいております。

ここに慰霊碑が建てられ、そして、佐賀藩士の皆様が秋田市を見おろす、眼下に見おろす、すばらしい土地にお眠りになっていらっしゃいます。

この戊辰の役から 150 年、そして、新庁舎の開庁記念に秋田竿燈まつり I N 武雄、きのうからも先輩議員さんたちが多くの質問をされております。私の前の上田議員さんも質問されておりますが、すばらしいこの秋田竿燈まつりを、市民の皆様と、そして地域の皆様と、家族と一緒に目にすることができるなんていうことは夢にも思わなかったことでございます。

多くの皆様方が歓喜に震え、そして、この竿燈に魂が宿り、脈々ときずなをつないでいただきました先人の皆様方に感謝をするばかりでございました。

新庁舎の改築記念、それから、開庁記念、明治維新 150 年記念に基づくこの秋田竿燈まつり I N 武雄、先ほどからたくさん、先日も質問がございましたけれども、まずは経済効果という非常に何かおこがましいような、崇高な祭りでございました。

きょう傍聴にお見えの皆様方も、お見えになっていただき本当によかったねと、もうこがんお祭りば見られるって思わんやったよって、もう歓喜に震える声でたくさんメールや電話をいただきまして、お会いするたびに、まだまだ余韻が続いているんじゃないかなというぐらいに皆様方喜ぶ、喜んでいただけるようなお祭りじゃなかったかなというふうに思っております。市長、本当にありがとうございますという声がたくさん私にも届いております。

どっこいしょ、どっこいしょ、もういつまで市長さんいんさあとやろうかと、大丈夫やろうかのどは、きゃあかれんさらんろうか、市民の皆様方も心配していらっしゃいました。

この経済効果について、また、市民の満足度について、それから、歴史や文化を通じた教育的きずなの構築、こういった点において一般質問まずさせていただきたいというふうに思っています。

先ほども質問が、上田議員さんのほうから質問ございましたけれども、経済効果、るる質問がされておりますが、もう一度、答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

お答え申します。繰り返しになりますけれども、改めてということで答弁いたします。

8 万人の御来場者の方がいらっしゃいました。観光消費額に換算いたしますと約 5 億円と

数字が出てまいりました。それと、新聞、テレビ、雑誌など、多くのメディアの方に取り上げていただいた、その広告効果は約4,500万円でございます。これらをもとに経済波及効果に換算いたしますと約9億円の経済効果があったということでございます。

2点目の市民満足度でございますが、これにつきましては、アンケート等、実際は実施をしておりません。

統計的な数字を持ち合わせておりませんが、各種団体等の会議の席で事業の報告、秋田竿燈まつりのお礼等を言った際に、大変よかったという声を8割強の方々からいただいたわけでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ここで言うと3番目に関連すると思うんですけども、終わった後に私がよく言われたのが、最初は何で秋田っていうふうに思ったと。でもこれをきっかけに、ああ、武雄と秋田にはこんなつながりがあったんだということがわかったということ、そういうお話をよく聞きました。あとは、やっぱり武雄の歴史を知るきっかけになったという声もいただきました。

まさに今回の秋田竿燈まつりがきっかけで地元に対する誇り、そして、地元の歴史をまた知りたいと、そういった次のステップへの大きなきっかけになったんじゃないかと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今、市長もおっしゃっていただきましたけれども、歴史や文化を通じた教育的きずなの構築、再構築でしょうか、こういったこともこの秋田竿燈まつり、ただのお祭りではなくて、歴史や文化をしっかりと受け継ぐ、そして、その背景を私たちは知る必要がある。武雄市内でももっともっと多くの学びの機会を展開する必要があるんじゃないかなというふうに思うところでございます。

今、武雄市図書館でも特別展が開催されております。また、佐賀県においても明治維新150年祭が繰り広げられております。私どもも地域の皆様と一緒に県のほうにも赴いて、勉強を深めたいと、学習を深めていきたいというふうに思っているところでございます。また、先日は山内町の黒髪大学におきましても、佐賀城本丸歴史館の企画学芸課長であります浦川課長をお招きしてのお話を私も拝聴することができました。

こういったことで、今後さらにこのお祭りを、竿燈まつりを武雄市で開催することももちろん大事なことでございますが、こういった教育的なきずなの構築をさらに深めていくとい

うことが最も私は大事なことではなかろうかなというふうに思っているところでございます。

秋田に赴く子どもたち、そして、市民の皆様も赴くということで補正予算がなされておりますが、そこにはちょっと触れることができませんけれども、教育委員会において、このような取り組みを今後どういうふうに展開させていこうと思っていらっしゃるのか御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

秋田竿燈のことが議題にも多くなっております。

何であんなに盛り上がったのかなということを改めて考えますと、穂積市長さんが鎮魂の思いで演じますということで語られました。

それから、私どものほうも、残念ながら戦に倒れられた方々を丁寧に葬っていただいて、今も祭っていただいているという感謝の思い、そういう思いがあったからこそ、単なる秋田竿燈に来てもらったんじゃない、物すごい盛り上がりになったんじゃないかなという思いがいたします。

こういう心の交流、これまで続けていただいた方々にも感謝しつつ、この交流のあり方というのを考え、大事にしていきたいというふうに思います。

同時に、恐らく物すごい兵力があっただけに悩まれたこともあったんじゃないかとも思うんですけども、これからの行く末を案じて先進的に取り組まれたと、こういう精神も受け継いでいきたいものだというふうに思うところです。

そういう中で、今回もケーブルテレビさんに協力いただいて、各小中学校に事前に歴史資料館に流しておりましたビデオ等を回覧することができました。

ということで、モニターお願いします。

（モニター使用）「どーして武雄で秋田竿燈なの？」と、子どもたちの目線に立った、目線でのテーマにいたしまして、5月27日まで開催したところであります。

引き続き、現在、今お話にありましたように、7月1日まで「武雄軍団秋田を駆ける」という第2弾をする予定にしております。

それから、その次は秋田とはちょっと話、離れますが、維新150年にちなんで8月5日まで山口尚芳の企画展を予定をいたしております。

こういう形で150年という節目の年、それを生かしているいろんな企画展、それから、副読本を、子どもたちが理解できる副読本を今進めておりますので、これもより意義あるものにしていきたいというふうに思っております。

また、歴史資料館でも出前講座等にも出向いて、こういうお話もさせていただいて、いろんな場と機会、方法で150年ならではの子どもたちへの教育、そして、市民の皆様への理解

を深めるようなことを進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

副読本もできるということで、さらに子どもたちの学びの深まりにもつながるのではなからうかというふうに思っております。

ぜひとも、これで終わるのではなくて、さらなるこの秋田との交流、そして、秋田市は全国1、2を争う教育県でもございます。しっかりとこういったところでの交流も深めていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

本当にありがとうございました。職員の皆様、夜遅くまでお疲れさまでございました。

それでは次、エリア開発についてでございます。

関連してですけれども、高野小原住宅の建設について。

北方町に今度新しく建てかえが計画されている高野小原住宅の建設について進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

おはようございます。高野小原総合建てかえ事業の進捗状況でございますが、現在、両住宅入居世帯にアンケートの調査を実施したところでございます。

このことによりまして、再入居希望の世帯及び希望部屋のタイプ等を把握したところでございます。

今後はこのアンケート調査を踏まえながら、本年度中に実施設計を行い、来年度から工事着手を行い、32年度末に躯体、住宅本体の建築及び外構工事を完了する予定で進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

次に、国道34号バイパス延伸について。

これも関連した質問でございますが、現状と、そして今後どのようになっていくのか御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

国道 34 号バイパス延伸の進捗状況についてということでございますが、昨年度開通いたしました区間を含みます北方町の区間約 2.9 キロが、平成 30 年 1 月 26 日付で武雄市都市計画道路として決定されたところでございます。

今年度につきましては、新しく整備を予定しております区間につきまして、調査費、設計費に 5,000 万円が計上されております。

なお、今後の具体的なスケジュール等についてはまだ決められておりません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3 番猪村議員

○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

こちらは武雄市の東の玄関口の武雄の地図でございます。

今、御答弁をいただいたところはこちらでございます。住宅地がこちらのほうに移転をするということでございまして、バイパスの延伸がこちらから向かっていくということになります。

このエリア開発についてというような質問をさせていただいておりますが、この地域は国道 34 号バイパス延伸、住宅の建てかえ、高野小原住宅の建てかえ、常襲水害地、新幹線の複線化の工事、変則交差点改良、また、信号機の設置の要望など、そして、新橋付近の道路改良の要望なども地元から上がっている地域でございます。

また、国道 498 号の整備、きのう松尾陽輔議員さんが一般質問されましたけれども、牟田議員さんも一般質問出されております。きょうこの後でございますが、——ルートの決定、それから、国道 34 号の、——これ見えております、こうずっと行きますけれども、グルメロードと言われるようなところのさらなる発展、そして、私もそうですけれども、先輩議員さんたちも体育施設の建設の要望を北方でもよくはないかというようなお声も頂戴しているところでもございます。

武雄市の東の玄関口である北方のエリア、また、市内にそういった箇所がほかにもたくさんあるというふうに思っております。

そういったエリア開発を柔軟に、かつしっかりと計画書を立てて、エリアを開発させていく、そして課題を解決していく。安心安全な、市長の政治姿勢でもあります安心安全でもっと暮らしやすい武雄市をつくっていくためにも、こういった計画書を立ててしっかりとまちを延伸させていく、こういったところが私は必要ではなかろうかというふうに、前も一般質問をさせていただいております。

そのときの答弁は、スター戦略を今は立てておりますのでそれでやっていくということでありましたけれども、このエリアの開発、ここら辺の地域はこういうまちにしていこうか、山内はこういうふうに、朝日はこういうふうに、橘はこういうふうなまちになってほしい、そしたら武雄市がもっと発展するんじゃないか、そういったところをしっかりと計画を立てて、しかも柔軟にローリングさせていっていいと思うんです。社会の流れ、変革は激しいです。しかしながら、計画は立ててほしい。そういった思いでいっぱい、何回も一般質問させていただいております。御答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まさに土地利用のあり方は、まちづくりのあり方でもあるというふうに思っております。

まさに問題意識は同じでございます、今年度、市役所の中に土地対策室を新設いたしました。

その土地対策室をつくって、そして、今後はしっかりと調査もして、武雄市の土地利用計画の策定、ここにつなげてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

市長を初め、まちづくり部長、それから県議、また、議長など、要望活動に日ごろから邁進をしていただいております。国道34号バイパスの延伸、それから水害の問題等々もしっかりと要望活動をしていただいているというようなことも聞いてもおります。

今後とも、議会も中心になって、地元の方々との協議を重ねながらすばらしいエリア開発の計画をして、もっともっと住みやすい、もっともっと暮らしやすい武雄市をつくっていきたく、皆様方とともに議会も一緒につくっていきたくというふうに思っております。

どうかこの計画をしっかりと立てて、——土地対策室を設置していただきました。本当にこれからの延伸を期待しております。よろしくお願い申し上げます。

それでは次にまいります。

子育て政策についてでございます。

きのう、山口昌宏議員からも一般質問がございましたけれども、私にもこの保育士不足について、保育士が足りん、介護士さんの不足もそうです。今働き手の方々が不足しているというところでお店を閉じられるチェーン店もございます。

そういった中で、この保育士不足については市長の子育て政策一丁目一番地の政策でもございます。この保育士不足について全国的にも同様と思われませんが、武雄市の現状について、また、対策についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

おはようございます。対策についても引き続いてよろしい・・・まとめてということで。

まず現状ですけれども、昨日 16 番議員に答弁をした内容と重複いたしますけれども、近年、共働き等の増加により保育のニーズが高まっており、特に 1 人当たり多くの保育士を必要とする 0 歳、1 歳、2 歳の保育の入所希望者が増加しております。

これに加えて、延長保育など保育のニーズが多様化しており、その人材の確保が非常に厳しい状況ということになっております。

そういった中で、武雄市の子ども子育て会議においても、現場では保育士が不足している、いい保育、教育環境をつくるためには市においても人材確保の取り組みを検討していただけないかという意見が多く出ている現状でございます。

そういった中での今後の人材確保の取り組み、現在では市内の保育施設におきましても、県や民間団体が主催します就職説明会への参加、そして、保育士を養成されている大学等を訪問しての採用活動などに取り組んでいただいている状況です。

武雄市の今後の保育士の人材確保の対策につきましては、保育士の資格を持ちながら保育の現場で働いておられない潜在保育士の方に対し、復職を促す再就職研修会を来月から開催を予定しております。研修会に要する経費の一部については、今議会で補正予算を提案しているところであります。

そのほか、他の自治体ですけれども、自治体内の保育施設に新たに就職される方に対する就職準備金の支給などを実施している自治体があります。

現在、そういった自治体の事例について調査研究を行っており、今後、保育士の確保、保育の質の向上、保育士の働きやすい環境づくりにつながる効果的な取り組みについて提案、実施していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

部長、今回予算に上がっている部分にちょっと触れておりますので、予算に上がっている部分は用心して、注意をして。

3 番猪村議員

○3 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

保育士不足についてはもう待ったなしでございます。

早く手を打つ、カンフル剤というものがなかなか見つからない状況ではありますけれども、きのう山口議員もおっしゃいましたけれども、唐津市が保育士さんに対する準備金を 20 万出すというようなことも伺っております。武雄市も現実的な打開策がもう必要になってくるん

じゃないかなというふうに思っています。

武雄市は先般、佐賀女子短大と協定を結び、教育や観光、そして、まちづくりに学生を巻き込んで、そして一緒に、若い人たちとともにまちをつくっていこうというような協定も結ばれたというふうに思っております。

そういったところで、佐賀女子短期大学との連携、また先般、私も一般質問させていただきましたけれども、西杵住宅等々、武雄市内の住宅、最上階、もう4階、5階になるともう上までのぼり切らん、構造上そういったところがまだ市内にございまして、そういったところに住んでいただいて、そして勤めていただいて、そして地域のまちづくりにも参画してもらおう。そういったことも一手ではなかろうかというようなことも申し上げたことがございます。

市長、この保育士不足について市長の考えをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先ほど部長から、潜在保育士に対する研修を予定しているというような答弁ありましたけれども、これについてはまさに現在、予算案で上がっておりまして、その事業の必要性、そういったものについては、今議会で議員の皆様にご議論をいただくというところでございますので、その発言については訂正をさせていただきたいというふうに思います。

その上でなんですけれども、昨日も私、お答えした話なんですけれども、やっぱり保育士さん、いかに入り口部分で、保育士になりたいというふうに思っていらっしゃる方に、いかに武雄市内で保育士になっていただくか、就職していただくかというところがまず一つあると思います。さらには、就職した後はいかに離職せずに働けるかということで、ここについては恐らく職場環境というところはあると思います。

今、保育園でも本当にいろんな、職場環境をよくしようということで各園取り組んでおられますけれども、例えばそういうところに対して何かさらに一步の支援ができないだろうか、主にこういう2点について、今後ぜひ現場の話もしっかりと聞いて、そして対策を講じていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

人生100年時代といわれる中でのリカレント、保育士に限らず、どの分野でも学び直しは必要になってくるというふうに思われます。

今、生まれてくる子どもたちは、人生を100年生きるといわれております。そういった中

での生きるということ、生き抜くということも加味するこのリカレント、しっかりとやっていただきたいというふうに思っております。

また、子育て支援センターで日ごろからサポーターの養成講座を行っていただき、地域で抱っこボランティアとか、いろんな事業が開催されるときに、そこから一步出向いていただいて、抱っこしたり、ミルクを飲ませていただいたり、そういった地域の方々が学ぶ機会、そして生きがいをつくったり、喜びを感じていただく、そういった事業が多く展開されております。

また、そういった事業をワンランクアップさせて、地域の方々にもしっかりと学んでいただいて、認定こども園、それから、幼稚園、保育園にお手伝いに行こうかね、そういうふうなことになればいいなというふうに思うところでもございます。学びをしっかりと生かすというような取り組みに変わっていけばいいなというふうに思います。

これは提案になるのですが、地域型保育事業というものがございます。

ちょっと小さくて見にくいかもしれませんが、——地域型保育事業という取り組みがございまして、4つ種類がございます。

1つは小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型保育事業でございます。

一昨年度、この小規模保育事業に取り組むと佐賀市が開設をされましたということで、2年もたたないかと思えますけれども、前に、一昨年度、見学に行かせていただいたことがございます。

それから何と、佐賀市さんは、需要もあると、保育園が足りないということもあると思うんですけれども、2年足らずで20の小規模保育事業が展開されているというふうに聞いております。

すごいなというふうに思っておりますが、なぜ私がこのことを申すかといいますと、この小規模保育事業は、6人から19人までしか保育をすることができません。そして、0歳、1歳、2歳までです。しかしながら、家庭的な雰囲気、佐賀市で私も見学をさせていただいたところは、自宅を改装して、小規模保育事業に取り組みましていっしょにやりました。非常に家庭的な雰囲気、0歳児、1歳児、2歳児さんが落ち着いた生活をそこで送られていっしょにやりました。いいなと思いました。

しかしながら、課題もございます。3歳児になったら別の園に通わなければならないというようなこともあります。

しかしながら、武雄市内にある認定こども園さん、それから、保育園さん、そういったところに御協力をいただいて、こういった事業の展開もなされれば、0歳、1歳、2歳児の受け皿が武雄市でももう足りなくなっているというような答弁もありましたので、ぜひこういったところも検討をしていただいて、——来年、保育料の無償化も上がっておりますけ

れども、今後、武雄市の保育園、認定こども園さんが、幼稚園が不足しないとも限りません。たくさんの方々に武雄市に住んでいただくためには、こういった取り組みも大事になってくるのではないかなというように思います。

ぜひ、こういったところも検討をしていただいて、小規模で温かい雰囲気、また、空き家も使っていただく、そういったところでぜひ高齢者の方々、そして、学び直しをした方々に勤めてもらう、参画してもらう。そして、空き家の改善にもつながる。0歳児、1歳児、2歳児さんたちが家庭的な雰囲気保育を受けることができる、一日過ごすことができる。

働き手も不足しています。しかしながら、子どもたちにとっての環境はしっかりと整えていかなければなりません。

おうちで御家族がしっかりと子育てをしてくださる、そういったことも本当に大事だというふうに思っておりますが、この経済環境、そして、社会情勢を鑑みますと、こういった取り組みも一手ではなかろうかなというふうに思うところがございます。

ぜひ、武雄市としても検討していただき、——きょうは答弁を求めませんが、市長こういったところもしっかりと町内でも勉強会していただきまして、取り組みを強化していただければと。

子どもたちのためでございます。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、次にまいります。

交通政策についてでございます。みんなのバスについて。

今、このみんなのバスの運行状況、私も前、一般質問、今回で3回目になりますが、させていただきます。みんなのバスの現状、御答弁ください。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

モニターお願いします。

（モニター使用）みんなのバスの現状でございます。

お示ししておりますスライドは、平成29年度の実績をお示しさせていただきます。

市内に11路線走っております。年間の利用者数が9,297名ということで、1便当たりの平均が1.5人というふうになっているが現状でございます。

なお、平成30年度から下の2つ、黄色の若木町につきましては、4月からデマンドタクシーへと移行しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

すみません、今のモニターそのままお願いしてよろしいですか。

9,297名の方が利用されていらっしゃる。利用されている方はですね、本当によかった、これで病院に行きようとしていらっしゃる方もいらっしゃいます。

ありがたいことだと、ありがたい取り組みだなというふうに思っておりますが、いかにせん平均が1.5人ということでございまして、これは非常にもったいないというようなことを感じる日々でございますが、そういったことを思っているのは私だけではないというふうに思います。

モニターチェンジお願いいたします。

再三再四言っておりますが、これ許可をいただいて映させていただいておりますが、みんなのバスのラッピングのことでございます。

以前は大阪狭山市に出向いたときのさやりん号を、循環バスのさやりん号をモニターに出させていただきましたけれども、以前、豊村議員さんが市のマイクロバスをラッピングしたらどうかというようなことをおっしゃいました。市外にも出向きますし、武雄の広告をしたらどうかというようなこともおっしゃいました。

それも本当にそうだなというふうに思いますが、ああ、みんなのバスが通っているという目印ですね。今、白い車に黒字でみんなのバス、それもちょっと剥がれかかっていたりします。そういったところを改善して、ディズニーとまではいきませんが、市内の、——まあ先ほどモニターで見ていただきました大聖寺のあじさい、また春になりますと桜が咲きます馬場の桜、若木のジラカンス桜、そして、武雄の梅林では梅も咲きます。そういったところをちょっとマグネットでつけるというようなこともできるというふうに思うんです。

あ、みんなのバスに乗ろう、みんなのバスここぼ通りようとなというようにわかるようなラッピングをちょっと考えていただけないかなというふうに、再三再四でございますが御答弁をよろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

ラッピングについてでございます。

現在、若木を走ります前の昭和バスの路線につきまして、現在、ジャンボタクシーでの運行をしております。

これにつきまして、牟田議員さんからも前にお話がありまして、そういうふうな形で現在、ラッピング等を検討しているところでございます。

これにつきましても、台数等も路線等も非常に多うございますので費用等を考えながら少し検討させていただきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

ラッピングは検討していただいているということでございますので、楽しみにしたいというふうに思っております。

また、このみんなのバスは地域で検討していただいて、路線などはつくっていただいているということでございますが、高齢化が進む中、免許証を返納したかばってん、バス停まで2キロ、3キロあもんねとか、もう返納すっぎ、買い物とか病院がちょっと行きづらくなるというような声も、選挙戦のときでも非常に多くいただく声でございました。

そういった中で、この乗りおりの仕方、また、ルートのことですね、そういったところを、例えば手を挙げてとまってくださらないか、それとか路線をもうちょっと小まめに回っていただくことができないか、そういった路線のこと、そういったことを御答弁をお願いしたいというふうに思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

みんなのバスの乗降場所につきましては、乗降場所が決まっている路線、また、フリーで乗降ができる区間というものがございます。

これにつきましては、路線を決定する時点で、地域の方と協議をした上で決定をしているところが現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

みんなのバスについても、もっと利便性よく走っていただきたいという声がたくさんありますので、そういったところで、手を挙げてとまっていただいて乗っていただく、そういったことも一つは検討していただきたいというふうに思っております。

また、市内循環バスでございますが、市内の皆様にも、29年度1月1日発行で、この時刻表（資料提示）がお手元に届いているというふうに思われます。非常にすばらしい出来じゃないかなと思って、私いつも手帳に入れておるんですけども。

これは本当にしっかりとつくっていただいております、5ページ、6ページに、市内循環バス、朝日橋武雄線、それから、2番の武雄循環バス、武内武雄線若木経由、この2路線が今、武雄市の中で循環バスとして、民間のバスが動いてくださっています。

こういった循環バスも、みんなのバスと同様、例えば小型化をして、もう少し市内に小まめに回っていただく、そういったところも重要になってくるんじゃないかなというふうに思っております。

とにかく、高齢化をして、——今回、高齢者福祉パッケージで、応援券を6月15日から受け付けがなされて発行になります。

75歳以上の方が、そういうチケットを生かしてですね、お出かけして下さったら本当にいいなというふうに思っているところではございますが、いかんせんバス停まで行こうでちやざつとなか、そういう周辺部もたくさんございます。

せつかく市内を循環するバスがある。日曜、祝日は休みになっておりますが、もっと利便性よく、みんなのバス同様、地域の交通の原点として、高齢者の方のみならず、妊婦の方々、そして、お産をして子どもを連れて病院に行かんばいかん、そういった方々にも利用しやすいような循環バス、みんなのバスにしていきたいというふうに思いますが、市長、このような、この交通政策についていかがお考えでしょうか、御答弁お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

循環バスに限らず、公共交通、全体のあり方というところはしっかりと考えていかなければならないと思っております。

それは移動手段ということに加えて、やはり福祉政策という面もこれからはますます強くなっていくというふうに思っています。

そういった形でまさに市内でも、バスは企画部、福祉は福祉部ではなくて、やはりそこは横断的に考えて、市民の皆さんにとって一番いい公共交通のあり方、これについてはしっかりと全体を考えていく必要があると思っておりますので、今後取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ぜひ、ぜひ考えてください。よろしく願いいたします。

それからバス停の整備、これも重要じゃなかろうかなというふうに思います。バス停まで行ってバスば待とうというふうなことを考えてくださるような、物理的な環境もしっかりと整えていただければなというふうに思います。

これは、今、開発途中の新幹線の駅舎の南側のバス停でございます。あ、すごいなというふうに思っております。ちょっと太陽光もついたりして、非常にわかりやすいし、私がちょうど写真を撮りに行ったときも、中でお二人の方が、観光客の方がキャリーケースを持って、ここにお座りになっていらっしゃいました。

平日でありましたけれども、もう本当によくこそ武雄市へという感じでございましたけれども、こうやってバスに乗って行こう、バス停で待ち合わせをしよう、椅子があるね、この

先にもちょっと椅子を置いていただいております。そういったところで、こういう配慮も必要ではなかろうかなというふうに思っております。

どうか、こういった取り組みもあわせてよろしく願いいたします。

先ほど、若木町のデマンドタクシーのことが出ましたけれども、もう一度、この若木町のデマンドタクシーについて御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

若木町のデマンドタクシーでございますが、路線、乗降場所、運行時間を設定いたしまして、予約のあったときに乗り合いにより運行するものであります。

若木町はこれまで、みんなのバスの路線を維持いたしまして、上若木線が月曜日と木曜日、川古本部線が火曜日と金曜日に運行をしております。発着点は若木公民館で、1日10便で設定をしており、予約があったときのみ運行をしております。

なお、運賃につきましてはみんなのバスと同額、中学生以上が200円、小学生以下及び障がい者の方につきましては100円で運行をしております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

上若木線が月曜日、木曜日、川古本部線が火曜日、金曜日で、今年度からデマンドタクシー、予約制で回るといような取り組みもなされているということで、若木町の方々にとってはお出かけ、そして、交通の利便性、住みやすいまち、そういったところに若木町、配慮をいただいているなというふうに思っております。

議員さんたちも一生懸命頑張ってください、声を上げてくださっている成果が出ているんじゃないかなというふうに思うところでございますが、一つこれは有田町の事例なんですけれども、有田町もデマンドタクシーを回していらっしゃいます。

曲川・大山ふれあいタクシーということで、この有田町の取り組みはおうちまで来てくださいます。予約をしているとおうちまで来てくださる。個人ではなくて乗り合いです。乗り合いでお迎えに、個人のお宅まで迎えに来てくださって、行くところが、箇所は武雄同様、決まっております。そういった取り組みがなされているところもでございます。

おうちまで来てくださると、高齢者の方が、例えばおひとりでお住まいの方、タマネギや、例えばトイレトペーパー、ジャガイモとか、そういったものは買うと重うございます。おうちにお迎えに来てくださると、自宅に迎えに来てくださると、そういったものも買いやすい。そして、乗り合いですので、ところどころで知り合いの方とも一緒になる。

そういったところでの取り組みも有田町でなされていると。エリアを限られてはすけれども、200円から300円の費用を1回乗車で払っていただくということでございます。そういった取り組みもなされているところがございます。

御家庭に、高齢者の方もそうですけれども、妊婦の方とか、産後間もない小さい赤ちゃんをお持ちの方とか、そういったところも高齢者のみならず利用ができるようなデマンドタクシー、そういったものもしっかりと取り組んでいただければなど、これは提案でございますが、どんどん地域の方々、市民の皆様の声を聞いて、市長、政策に生かしていただきたいというふうに思いますが、このデマンドタクシーについて、市長、どのような御見解でいらっしゃいますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、若木町で、まさにデマンドタクシーという試みをしておりますけれども、今、有田町が、言われたのはちょっと私も不勉強なものですけれども、恐らくデマンドタクシーで路線を決めずに何かエリアで考えると。このエリアの中だったら家からどこかまで行くよということなのかなというふうに思いました。

デマンドタクシーについても、恐らくいろいろなあり方があると思います。実際の地元の皆さんの声、そして、それを運行する、だれが運行するのか、事業者の方との調整であったり、そういった面はさまざまあると思いますので、そこについては我々もしっかりとデマンドタクシーについても引き続き勉強をして、そして今、若木町でもしていますけれども、さらに今後、全体としてどういう交通体系が一番いいのかというところは先ほども申し上げましたけれども、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番猪村議員

○3番（猪村利恵子君）〔登壇〕

有田町も武雄市と同じように行く箇所が決まっております。

四季ありた、小嶋内科、有田町役場、そして商業施設、そういった役場、ないし商業施設、ないし病院、そういったこと、箇所を決められていらっしゃるようでございます。

また、デマンドタクシーのほかに、これも一つは、例えば地域で車を、市の車、まあ電気カーでも何でもいいと思いますけれども、きのう昌宏議員もおっしゃいましたけれども、横の連携をとって、地域包括ケアシステムの中で、福祉の中で、市長も先ほどおっしゃいました福祉の中でも考えていかなければならないところだろうというふうに思いますが、地域の方々が地域で車を回して、顔の知った方々が、同士で地域のタクシーを回すというようなデマンドタクシーを地域でつくるというようなところも、一つはこれから検討の余地があるの

ではないかなというふうに思います。

課題もたくさんあります。だれが運転するのか、そして保険の問題とかもあるでしょうけれども、さまざまな問題をクリアしていきながら、武雄市独自の交通政策をどうか小松市長、とっていただきたいというふうに思うところでございます。

これは人口構造の変化でございますが、皆様方御存じのとおり 2060 年には総人口は、日本の人口 8,674 万人ということで高齢者がもう 4 割、生産年齢人口よりもふえるというような、ふえるというかですね、変わらない状況に陥ってくるというようなところも統計が発表されております。

2025 年問題も近いです。しかしながら 2025 年から高齢化がもっともっと進んで、私もあと 40 年も生きるかどうかわかりませんが、こういった問題が生じてくる。

武雄市にもっともっと住みよいまちの空気を、風土をつくっていく、それがこれからもっと大事になっていく。真剣にこの人口構造も考えながら、少子高齢化に対応していく、負けずに武雄市をつくっていく、こういったことが大事になっていく。

市長、2 期目、きょう新聞に載っておりましたけれども、しっかりと取り組んで、もっともっと住みよい武雄市をつくっていただきたい。そして、議会もともにつくっていく、市民の皆様と一緒にやってつくっていく、そういったことをきょう市長もしっかり答弁でおっしゃっていただきましたので、期待をしながら、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で 3 番猪村議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10 分程度を休憩いたします。

休	憩	10時56分
再	開	11時05分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、18 番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長から登壇の許可をいただきましたので、質問を開始したいと思います。

最初に、さっきの質問のところでちょっと思ったところなんですけども、若木町のデマンドタクシーって出ましたよね。デマンドタクシー、デマンドタクシーって言われますけども、デマンドってどがん意味か知っとうですか、皆さん。

そういえば行政用語は、例えば地元説明に来たときも、デマンドタクシー行きます、デマンドタクシー行きますって。この中でデマンドの意味がわかる人ちょっと手を挙げてみてく

ださい。わかあですか、デマンドっていう意味が。

デマンドっていうのは要求っていう意味ですね。要求があったところにタクシーが行くという。

行政用語でよくデマンドってありますけども、デマンドって説明されますけども、そこから変えていただきたいという要望を前に出しました。できれば、わかりやすい行政用語、行政用語をかみ砕いて、きちんと市民にわかりやすい言い方というのも一つの方法ではないかと思い、ちょっと先ほどの質問で思ったことを述べさせていただきました。猪村議員さん申しわけございません。

ここで質問するのは、もちろんこの新議場で初めてなんですけども、やっぱり全然違いますね、感じが。多分、少しずつ改善はされていくとは思いますが、きのうの質問を見ていくと、今までのテレビの角度とは違う、多分ひよっとすると、私、背もそこそこ高いですし、横はもっと大きいですから、後ろの議長さん見えないんじゃないですかね。そういうところもやっぱり少しずつ改善していく一つかもしれませんし。

かつて武雄市役所の議場というのは広がったですよ。広がったその理由の一つは、本山昌太郎という市長がいらっしゃいました。そういう中で、うちは10万都市を目指す。観光、温泉、そして、そういうふうな高速も鉄道もあるから、今でいうハブ都市を目指すから、10万都市を目指す、だから議場も大きくつくと、そういうふうな気概がありました。

やっぱりそういう気概を持って、これから執行部のほうも市政に当たっていただければと思います。

質問を開始します。

まず一つは今言いましたハブ都市構想について。

2つ目、周辺部対策、ちょっといちいち読み上げるのは、見たらわかりますので言いませんけども。

今さっき市長が答弁の中で武雄温泉駅からという言葉が使われましたよね。乗って行ったとか、武雄温泉駅という言葉を使います。

武雄温泉駅というのは、1975年に武雄駅から武雄温泉駅に変わりました。今もそうですけども、市名と温泉がついた駅というのは日本で2つ。武雄温泉駅と人吉温泉駅、これ2つだけです。

もうすぐ新幹線が開業すれば嬉野温泉駅というのができます。武雄温泉駅にとまって、次は嬉野温泉駅ということになります。

そういう中で、市長はハブ都市構想ということでは言われました。ハブ都市構想、物すごくいいことだと思いますし、武雄がただ佐世保との分岐点だからハブ都市じゃなくて、分岐点もあるし、いろんな面に向けて武雄は中心になっていく、西九州、西佐賀の中心になるような、——先ほど言いました気概を持って、ぜひ計画を進めていって、先ほど言われました2

期目に向けても頑張っていただけだと思いますし、我々もこういう場で提言、そして質問をやっていければと思います。

先ほど言いました嬉野の話ですね。広域連携という言葉もありますけども、やっぱり先ほど言いましたように、武雄市の温泉というものを物すごく大事にしていかなきゃいけないという気持ちはあります。

武雄市は今まで、JR 駅もあります。高速のインターもあります。国道というのはちょっとつけ加えて書いたんですけども、あります。嬉野は高速インターで、今までJRの駅はなかった。

そういう中で、武雄と嬉野の観光を比べた場合どうなるか。平成 28 年と昨年ですね。宿泊数は武雄が 26 万人、嬉野市は 61 万人。武雄の倍以上、嬉野に泊まっています。

この中でこういう話をすると、絶対言う人がいるのは、嬉野のほうが施設の太かもんねって、絶対こういうことを言う人がいらっやいます。

でもね、武雄も、土日でも空席空室があるところもあれば、平常日あいているところもあるんですよ。そういうところを埋めていけばこの差なんてすぐ、——まあ向こうも同じことをやれば伸びるでしょうけども、やっていくと思います。

こういう中で、今言いました武雄温泉駅というのは人吉駅と一緒に、温泉という言葉を使った全国で2つしかない駅の一つです。

やっぱり当時は、1975 年当時はやっぱり温泉というのを物すごくPRしていました。

私は観光の原点に立ち返って、——きょう竿燈のお話いろいろ出たので、ちょっと竿燈の話は私はしませんけども、——やっぱり温泉という基本を大事にしていかなきゃいけないと思います。

旅館組合、観光協会、そして、市役所観光課いろいろあります。温泉というものをどのようにこれからPRしていくのか、どのように活用していくのか、これをまず最初の質問にしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

武雄のハブ都市構想、それは大きくいって定住・移住、そしてもう一つは観光だということです。まさにハブ都市の中で、目指す上で非常に大きな位置を占めるのは私は観光だと。これからの日本全体においてもやはり観光というところに力を入れていく必要があるというふうに思っています。

そういう中で、温泉ということですけども、確かに、やっぱり温泉というところは私は大事にしていくべきだと思っています。

東京の方に聞くと、武雄市、図書館が最近が一番上にきますけれども、福岡あたりの方だ

と、やはりまずは温泉というふうに、武雄といえどというふうに言われる方がふえてきていると思います。

温泉は九州にもたくさんあります。そういう中で、どうやってこの武雄温泉の特徴を出すのか。最近聞いたのは、例えば元湯の建物は今、現存する温泉の建物の中で最古らしいということ最近聞いて、それもちょっと私も知らなかったのが恥ずかしいんですけども。

例えばいろんな売りがあると思います。温泉もターゲットを決めて、そして、ほかとの差別化を図っていく必要があると思っています。

あわせて、そうはいつでも西九州のエリアにお客さんをやっぱり呼び込むということも必要です。嬉野とは争うほうの競争であり、そしてときにはともにつくる共創関係、ここをつくっていきたくて考えています。

○議長（杉原豊喜君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今言われたことをぜひ実践していただきたいと思いますし、武雄温泉の温泉、——私、新議場になってやっぱり武雄がもともと持っている温泉というやつを最初に質問しようと思っていて、こうやって質問させていただきました。

やっぱり基本に戻る。やっぱり温泉、例えばじゃらんのページの全国温泉有名、嬉野温泉は 50 位の中の 50 位のほうに入っている。武雄温泉は 1 ページめくってその次ぐらいにしか入らない。

武雄温泉の、——先ほど市長がおっしゃいましたように、今まで知らなかったけどこういうことがある、どんどん PR していただきたい。

そしてこれ、大分前の議会でも言いましたけども、例えば万葉の湯さんというのが今、武雄から温泉を、泉源を持っていってもらっています。そういう中で、——タンクローリーで持っていってもらってる。それは何で武雄温泉だったのか。

万葉の湯さん、大きい会社です。それが九州に進出してくるときに九州中の泉源を調べた。その中で一番よかったのが武雄温泉だったと。だから、何百万もかけて、ローリーをかけて、今 1 日 2 回、3 回と往復してくれるだけの、ローリーでやるだけの価値があると、武雄温泉は、温泉の温質ですね、泉質か。温質じゃないですね、泉質でした。泉質はいいということで、やっぱりこういうのをどんどん PR していただきたい。

武雄は幸いにも広報課というのがあります。広報でどんどん宣伝していく。武雄は情報発信が得意な市だと思っています。最近ややそれも陰りが見えたと言われますけれども、私はそういうことはないと思います。

どんどん情報発信をしていって、武雄温泉のいい場面をつくっていただきたいし、新幹線が開業したとき、武雄温泉駅、嬉野温泉駅とあったときに武雄温泉駅にも多くの人がおる、

嬉野温泉にも多くの方が、そういうふうな競争、共創、——この漢字が違くと市長がおっしゃいましたけども、そういう意味でやっていく、そういうふうな構想をぜひつくっていただきたいし、——担当課は大変でしょうけども。

竿燈まつり、すばらしかったと思います。でもあれは代打ですよ、借り物です。本当の武雄が持っている底力でぜひハブ都市構想の観光の部門の力を発揮していただければと思います。

この数字出していますけども、今、宿泊数を言いました。——すみません。モニターを、どがんすつきよかとですかね。——まあまあ、ちょっとやられている間、続けます。

武雄市はさっき27万人の宿泊客と言いました。でも日帰り客のほうは150——よかですか、すみません。——日帰り客のほうは武雄市のほうが多いですよ、嬉野市より多い。日帰り客が多い。だから、この日帰り客をもっとふやす。宿泊客ももちろんそうです。日帰りもふやしていただきたい。そういうところの戦略もこれから必要になってくると思います。

例えばこれ永野の風穴。これ僕いつも議会で取り上げているのでわかっていらっしゃると思いますし、武雄でも大分、この永野の風穴、そしてジラカンス桜というのが広がってきました。

県外の人たち、——最近市外県外の人が多いくらいです。そういう中で、永野の風穴、10年前に知っとなさんおったですか、10年前に。ジラカンス桜、10年前に知ってらっしゃる方いらっしゃいましたか。こうやって地域にはお宝が眠っていると思います。

馬場の一本桜もそうだと思います。八天桜というのも、赤穂山のトンネルのところに桜があったなというくらいでも、ああやって売り出せば全国的に来る。

ジラカンス桜は僕が行ったときには大阪から見えられていました。大阪から女性が5人見えられていました。

そういうふう地域に残っている宝を掘り返し、それは各町が頑張っていっていただければと思いますし、その各町がそういうふうな観光資源の掘り起こしをするののお手伝いをぜひしていただきたいと思います。

それがさっき言った154万人。月に直すと13万人、1週間に直すと約2万人。2万人が武雄市内を、この中の1割2割でも回遊してくれれば、そういうところに行ってくれれば、プラスになればと思いますけども、各町のお宝の掘り起こし、観光資源の掘り起こしのお手伝いを、まだ私はどういうお手伝いというのははっきりまだまとまっていませんけども、そういうようなところのお手伝いを役所としても、行政としてもやっていただけないものかということで質問したいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ジラカンス桜にしろ、風穴にしろ、地域の皆さんが環境整備をして、そして、地域の皆さんもPRしていこうと、まずやはり地域の皆さんの熱意、ここに対しては本当に敬意を表したいと思っています。

武雄市内にはほかにも、私もたくさんの地域資源があると思っています。

以前、菅牟田でお話をしたときに、眉山キャンプ場が、360度見えるということで、じゃあ星空が一番近いキャンプ場というような話を、私たまたま思いつきで言ったんですけども、そしたらやっぱり区長さんを中心に宇宙科学館と組んで星空の教室をやったりというようなことがあって、非常に私はそれはうれしかったなというふうに思っています。

そういった面で、やはりいろいろな視点というところを、やっぱり直接現場に行って気づいたことをどんどん議論をしていくというところが必要だと思いますし、市の職員もぜひ今まで以上に現場に行って大いに議論をして、そして発掘をし、そして、さっきおっしゃったPR、ここについてもさらに強化してまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今言いましたように、各町のお宝の掘り起こしで、市長がおっしゃいました地元の人の熱意。そういう中で、前回配慮していただきました20万円の交付金というのは本当に役立っていると思います。ひょっとすると、はっきり聞いておりませんが、この風穴にしてもジラカンスでもそういうのを利用してやっつけらっしゃるかもしれない。

何するにもちょっとお金はかかるものですから、ぜひそういうのも含めて役所の、何というんですか、御助力、御相談をお願いしたいと思いますし、これが今後につながることでと思っています。

ちなみに、永野の風穴、来月、風穴開きします。ぜひ皆さんお越しください。おいしいカレーが待っております。

各町の掘り起こしのところで言うと、——例えば橘町においても、おつぼ山という、——私おつぼ山って正直余り調べてなかったけど、この前調べたら物すごい遺跡なんですね。やっぱりそういうのもPRの一つだと思います。ぜひこれは教育委員会もそうでしょうけどもPRしていただきたいし、武内町で見つかった反射炉跡、製造跡地っていうのもすごいものだと思います。ぜひそういうのも含めてPR。

議長がいらっしゃる山内町も、物すごくこう風光明媚というのと、——これここで2回ほど言いましたけども、東京で移住相談と一緒に受けたときに一番多かったのが山内町という言葉を使いました。2番目若木町だったんですけども、山内町は風光明媚な、何というんですか、黒髪山とか何とかというの、そういうものをどんどんPRしていけばもっと観光客が来ると思います。

次、I C改札機。

先ほど上田議員さんが新幹線という言葉言われましたけども、新幹線は当然I C改札機もつくと思います。

ただ、今の現状のJ Rに、I C改札機がこの武雄市どころか佐賀県、佐賀市からついてないんですかね。これついてないと、ついていないのとついてないじゃ、来やすさとか、イージーさとか、——イージーさっていかんですね、何て表現すればいいのかな、手軽に来れるっていうのが全然違ってきます。年配の方はわかりません。

例えばS u i c aならS u i c aでも通ります。携帯でも通ります。福岡でやっているのでも通ります。

このI C改札機、これはJ R負担、そして県負担があります。市のほうは要望しかありません。ぜひこれをどんだん市のほうも要望してください。

必要とあらば有田町も多分協力すると思います。有田町は陶器市がありますね。陶器市のときもあの駅、100万人のうち何万人が駅使うか知りませんが、やっぱりこういうのが使われていない現状。多分これがついたら有田町の陶器市でも使われますし、これ逆におりようと思っただけですすぐおられるんで途中下車も気軽にできるんですね。

そういう意味においても、このI C改札機というのをぜひ導入を要望してほしい。つくるというのは市では無理ですから、要望してほしいというのがあります。

これはさっき言いましたように、新幹線は来れば必ずつくけど、今現状でもつけていただきたい、必要だと思います。

この前の竿燈まつり、本体のお祭りではないですけども、三間坂駅の改札口には、自動販売機を求めるのに国道まで列ができた。ほかの駅もそうやって列ができた。これができたら、ぱっぱぱなんですよ。

だから、そういう意味においても手軽さ、そしてこれからの観光需要を望むならこういうのがぜひ必要になります。福岡からのお客さんは、こういうのを求めているらしいです。

御答弁いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

先日の竿燈まつりでも鉄道で来られた方でI C乗車券で入場された方が、武雄温泉駅で、ないのでそこで精算をする列がかなりできていたというふうに聞いています。

やはりこの面は観光、そして移住・定住両面から私は必要だと思っておりまして、これまでいろいろところで要望はしておりますけれども、先日、知事も含めたGM21ミーティングで、まさに私のほうからも知事、そして、その場に対してI C乗車券の利用駅の拡大を要望しました。私に引き続いて有田の松尾町長さんも同じく要望されました。

知事のほうからは、必要性は認識したと。自分のほうからも積極的に働きかけていくというような発言がありました。

そこは県、市町一帯となって引き続き強く要望してまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。

やっぱりそうやって強いプッシュというのは必要になってきますし、これが実現すればまた大きな一歩だと思います。ぜひやっていただきたいと思います。

今まで J R の話をしてまいりました。ハブ都市構想の中で J R の次は道路、高速道路になります。

ハブ都市というのは先ほど市長がおっしゃいました交通網、それと観光というのもありますけども、高速道路、道路っていうのもあるんですね。

武雄インターと嬉野インター、さてどちらがおりの量が多いでしょう。はるかに武雄が多いです、はるかに。はるかに武雄が多いです。これは交通安全協会か、自動車組合か何かのときに、以前、資料見たときに、はるかに武雄が多い。

そういう中で今現在、武雄インターをおりたときの周り、やっぱりこれも一つの玄関口です。一つの玄関口ですので、ぜひこのインター周りの開発、そして、そういうふうな高速道路も一つの顔ですから、——先ほど猪村議員さんがおっしゃいました、これはエリア開発の中の一つなんですけども、ぜひこういうところ、インター付近の開発をやっていただきたいというのと、これももう一つ意味があって、インターあたりの開発、そして、先ほど庭木部長さんも答えられました国道 498 号の部分、きのうかな、言われた国道 498 号もそうなんですけども、俗に言う横串、東西の線と南北を結ぶ線。南北は国道 498 号になってきます。

これも前、議会でも言ってきましたように、西九州道が伊万里までできました。西九州道が伊万里までできて、また平戸までできます。平戸も途中開業して、大分開通して、大分早くなりました。

そういう中で、縦のラインでもこの武雄に来られるように、ぜひ早目に、早くこのインターあたりの開発及び国道 498 号の添えつけをやっていただきたいと思います。

先ほど猪村議員さんも言われたように、いろんな開発をやっていただきたい。例えば、私が前から言う体育施設。これは何か都市公園法にひっかかって、今ちょっとストップしているということも聞きますけれども、そういう中で、もし例えばそれがクリアできたらこういうところに持ってくるとか、いろんな方式があると思います。

ぜひインター周りの開発、玄関口ですから縦串の整備、これをお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

私からはインター周辺の開発についてでございますが、先ほども答弁をいたしましたとおり、現在、都市計画基礎調査を進めており、その調査、分析結果を踏まえた上で、武雄北方インターチェンジ周辺を含めた市全体の土地利用計画を作成する予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

国道 498 号北方工区のルートにつきましては、今、杵藤土木事務所のほうで委託業務がなされております。

ただ、民家や事業所等が多く集中する地域でもございますので、ルート選定には時間がかかっているところでございます。少なくとも今年度中にはルートが決定されると聞いております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

国交省に行ったとき、国交省でだれが一番、何ていうんですか、偉いんですかじゃなくて、話を通じるんですかって言ったときに、前言われていたのがですね、河川局長ですと。道路局長じゃないんですか。河川局長ですと。何でですかと。川をきちんと整備しないと道路が引けないと。だから、河川が先で道路が後になりますということでは言われました。

これもそうですね。国道 498 号のルートが確定しないと、ここの開発っていうのはなかなか先に進まない。ぜひ国道 498 号のルート開発をここでルートのほうをきちんと発表してもらい、その後の開発をやっていただきたいと思います。ぜひ強いプッシュをお願いしたいと思います。

ハブ都市構想、いろんなことでこう言ってきました。駅、そして温泉、高速。

例えば温泉にしても、駅に足湯つくってもいいじゃないですか。それとあと構図、新幹線から見えるところに温泉の PR でもいいと思います。いろんな方法があると思います。

そういう中で、ぜひやっていただきたいのがもう一つ、ハブ都市構想の中でやっていただきたいのがシネマコンプレックス、これもういつも言っているんですね。やっぱりハブ都市構想の中心になるところで映画館いっちょもなかとやと。という名目で言っていますけれども、やっぱり物すごく要望が多いんですね。

さきの選挙を通じて、その前の議会の質問でも物すごく、特に若い人たちからと思って

いたら、年配の方も結構言われるんですね。時間のあつたら見にいきたかばいと。今まで佐賀に行きよったばってんが、佐賀まで行かんでよかもんのもって。若い人たちだけじゃなくて年配の方からもこんなに言われるとは思いませんでした。

ぜひこの映画館誘致を何とか実現していただきたいんですけれども、市長でも担当課でもいいですけれども、どのような進展具合でしょうか。お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

神宮営業部長

○神宮営業部長〔登壇〕

シネコン誘致でございますけど、牟田議員の質問を受けて以来、積極的に進めているところでございます。

これにつきましては、事業の継続性を含めた可能性をビジネススペースで図り、最終的に企業側が経営判断をされることと思っております。

既に事業者側とは何回となく接触しております。

今後は西九州のハブ都市としての位置づけをさらに高め、シネコン誘致の実現に向けて努めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

私も、若い方だけじゃなくて、お年寄りの方からも映画館の話は聞きました。昔は農作業をやった後に、ときどき映画を見に行くのが楽しみだったっていうようなお話を聞きました。

ここについてはやはり、さっき答弁ありましたけれど、ビジネススペースっていうところがあります。だからこそハブ都市の機能、そしてにぎわい、そして、ああこのまちは可能性があるというところをいろいろな面で示していく必要があると思います。

誘致とあわせて、そのハブ都市、そして、いかに事業者の皆さんに可能性を感じてもらえるか、ここに対してもしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひトップセールスをお願いしたいと思います。

次、これは前載せた、これ何かわかりますか。みそカツなんですね。若楠ポークでみそカツつくりました。揚げました。これ僕がつくったやつですね。

名古屋のみそソースをいただいたんで、地元の川口畜産さんをお願いして若楠ポークいただいて、揚げました。めっちゃうまかったんですね。

やっぱり、食もハブ都市構想には大切なんですよ。僕、本当に思います。

駅が来たら、さっき言いました I C で、——これ実は話の続きなんです—— I C で手軽におりられる、I C 改札機で手軽におりられるっていうのは、手軽におりて食を食べに来ていただきたいんですよ。

これは何ていうんですか、一応そういうふうな質問のきっかけでここに出したんですけれども、これに限らずいろんな食の開発っていうのをしていけば、I C 改札、おりると思います。武雄温泉駅使っていただけると思います。これはね、めっちゃ強いと思いますよ。何々を食べるためにおりろう、I C 改札がダブルであればさらにだと思えます。

ぜひこういうのは、——これは答弁は結構ですので、ハブ都市構想の中にぜひ食の開発っていうやつを入れていただきたいと思って入れました。ぜひお願いしたいと思えます。

僕がつくったみたいに見えないでしょ。やっぱりですね、食べたら本当若楠ポークとみそカツって合うんですね。何人か食べさせたけど、本当においしいです。

では、ぜひハブ都市構想成功していただいて、西九州の、そして西佐賀の本当のハブというところで頑張っていたいただければと思えます。

スター戦略っていう形でされましたけれども、スター戦略の中にはハブ都市構想っていう言葉は入っておりません。ぜひ、スター戦略の中の、本当は総合計画でやっていただいて、ハブ都市構想の戦略、戦術、そして、その構想計画まできちんとやって、こういう食とか I C も含めてやっていただきたいんですけれども、ぜひそういうのを成功していただければと思えます。

では、次に進みます。

次は周辺部対策でございます。

これは先日、今月の頭に行った、うちの地区の区役ですね。区役、こういうところを延々と何キロも草刈りして行って、ここすぐ道路です。水路です。これを延々と何キロか泥上げしていく。どこまであるかな。こういうのをずっとやっています。

ごめんなさい、ちょっと何か拡張があれなんですけれども、一世帯当たりの、その地区の面積を出してみました。一世帯当たりのその町の面積ですね。

武雄町は一世帯当たり 2,900 平米、朝日町は一世帯当たり 5,300 平米、北方町は 9,800 平米、——ちょっと読んでいって申しわけないんですけれども、——山内町はそこからどんと上がって、一挙に 1 万の壁を超えました。橘町も広いと言われながら、一世帯当たり 1 万 6,000 平米。東川登町 2 万 2,000 平米。やっぱり西、——やっぱりって言っちゃ失礼ですけどね、うちも一緒です—— 3 万平米。武内町も 3 万 3,000 平米、一世帯当たりですね。やっぱりそれだけ一世帯当たりで見るところが多い。

例えば、うちの若木町一挙に 4 万平米です。武雄町の、これ武雄町が 2,900 平米ですから十何倍ですか、一世帯当たりになあざ。これがさっきのこういうのにつながるわけですね。

世帯が少ないんで、面積があるんで、国土の保全、市の保全、そういうのはやっていかなきゃいけない。地区で頑張ってるやっています。

もちろんそれは自分たちの土地、自分たちの田畑、自分たちの住まいを守るためでもありますけれども、こういうふうなやり方がだんだん限界になってきています。やっぱり地区だけではできないっていう部分がやってきています。

それともう一つ、ここに出してはいませんが、地区を保全するためにやっぱり区費っていうのを集めます。例えばオイルを買わなきゃいけない、牧柵を買わなきゃいけない、なので区全体でやる区費っていうのがあります。

これちょっといろんな、——何ていうんですか、各町、各町の、——各地区か、地区の施策があるんで、ちょっと書いてはいないんですけども。

例えば若木町、うちのまちですね。若木町は15地区あるんですけども平均すると、——区費ですよ、町費とはまた別ですよ。町の費用とはまた別。その地区、地区で集めているのが1万円、平均すると1万7,000円。町費というのはまた別ですから。1万7,000円を集めています。一世帯当たりですね。

じゃあ、豊村議員さんと今、目が合ったんで、豊村議員さんの地元の永島区、永島区は幾らか。永島区は4,000円なんですね、年間。で、一番多い、——あ、山口議員さんと目が合いましたので、川良。川良はちょっと平均すると6,000円ぐらいですね。

だから、ここでもやっぱり生活の具合が変わってきます。地区の保全のためにやっぱり我々一生懸命になって何とかやらなきゃいけない。

これも先ほど言いました、各地区に20万円ずつやっていただいた部分をこういうのに充てるとか本当に助かっています。

ですから、こういうのの地区の保全っていうのは、もちろん地区の人間も頑張るけど、これそろそろ限界を迎えてきているんじゃないかなと思います。例えば私が区役で出て一番長かったのが、8時から出て8時までかかりました。それでも途中でやめて、次の日にやらなきゃいけない。

何とか頑張ってるやっていますけれども、ぜひそういう部分の地域の、——何ていうんですか、土地の保全云々という言い方はおかしいですけども、そういうところをぜひ、まずは調査していただきたい。何かをやってくださいじゃないです。ぜひ調査していただきたい。

さっきの数字っていうのも、私が調査依頼をして初めてわかりました。ぜひそういう調査から、まず何でも調査から始まると思います。調査をやっていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

各地区の皆様におきましては、国道保全のために各作業等をしていただきまして、非常にありがたいと思っているところでございます。

先ほど議員がおっしゃられましたことにつきましては、今後、各地域の実情等を十分に調査させていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

調査をしてからやっぱり実態がわかると思います。

これもさっきの繰り返しになりますけれども、議会でこういうのを調べてくれるということとで初めてわかった数字です。数字を見るとやっぱりびっくりするし、ああ、なるほどなっているところも出てくると思います。

ぜひ調査のほうをやって、それを何らかの形で施策につなげていただければと思います。次、ずっとありましたね。これさっきのやつですね。

全然違うでしょ。多分ですね、こっちアスファルトかコンクリートがほとんどだと思います。草、余り生えないと。余りですね。これはほとんど草生える。大変だと思います。

続きまして道路のところでは。

きのう松尾議員さんから国道 498 号、若木バイパスの件でいきましたけれども、その続きじゃないですけれども、今、若木バイパスは途中までしかできていません。途中までしかできていませんっていうのは、秋に開業しても途中です。秋に開業しても途中です。

さらに、今おり口からずっと北方インターまで、——北方インターってさっきあの国道 498 号、答弁ありました北方インターまで来て初めて、武雄地区のうちの町、地元の町のところ、朝日町のところは完成となります。そして、縦串の縦のラインの完成となってきます。

今、途中までしかできていないっていうふうに言いましたけれども、途中からおりてきて現道に乗ります。現道に乗って戸坂峠に行きます。戸坂峠っていうのは御存じのとおり、武雄市内でも事故が一番多いところ。冬になったら凍結で通行どめが一番多いところでありませぬ。

そういう現道のところをぜひ整備、そして、地域の要望を聞いていただきたいと思っております。

まず例の一つで、いつもこの——何ていうんですか、工業団地から出てきて、川古山中地区。すみません、その国道 498 号の若木バイパスの出口のところは松尾議員さんがきのう言われましたので、こっちのほう行きますけれども、ここの出口のところに信号機の設置をお願いしている、この道路の整備をお願いしているけどなかなかしない。

これ、私実は 5 回目なんですね、この質問は。一番最初に質問したのは 11 年前ですよ。全くできていない。

似たようなのを、ここを、ちょっと失礼ですけども、これは朝日、——何やったっけ、北

方です、北方町。リムスからこう登ってきたところで橋下に行くところですね。信号機が2年前か、できました。

交通量、若木バイパス1日2万台。さらに今度は女山トンネルから出てくる人たちが乗ってくる、そして、工業団地の豊田合成が再稼働した。そういう中でどんどん出てくるときに、こっちは必要だと思いますよ。多分橋下から行く子どもたちが渡るために必要だとは思いますが。

でもこうやってどんどん、——これも必要だと思いますけれども、私が言っているところも必要だと思いますので、ぜひそういうので強くプッシュしていただきたいと言っても、答弁は頑張りますっていつも言うんですよ。

でも、実際行っているのは担当係長と、よくても担当課長までしか行っていない。一生懸命やります、プッシュしますと言いながら、課長、副市長は一切そういうのは行っていない。

本当にやる気があるのか、そこをまずお伺いしたい。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

議員御指摘の当該地点の信号機設置につきましては、武雄警察署に対し平成20年と22年、それから28年の3回にわたって要望書を提出しているところでございます。

県の公安委員会や警察署のほうで、過去にも現地確認等が行われたとのことでございますけれども、まだ設置には至っておりません。

信号機の設置につきましては、毎年、公安委員会の選定となりますので、引き続き強く要望してまいりたいと思います。

〔18番「部長と副市長さんが行ったかどうかという答弁はいかがなんですか。強く」〕

直接私のほうで出向いて、強く要望してまいります。

○議長（杉原豊喜君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当申しわけないですけども、それが姿勢だと思うんですよ。

議会の答弁、——例えばここ議会1回出たですかね、ここ。地元からの要望です。地元も要望も何回も出しています。

この本会議で、——さっき言いました、5回目ですよ。今までと全く同じ取り扱っていうふうな印象を受けたのでお伺いしました。ぜひ強くプッシュをお願いしたいと思います。

さっき言いました若木バイパスができた後の現道の、——これは松尾議員さんがおっしゃいました——現道との接点のところ、そして、現道に乗っかりますので現道の整備、女山ト

ンネルも旧道との合流点、いろんなところで、——例えばきょうも北方バイパスのところで事故起きたんじゃないですかね、新しいところ。じゃなかったかな、何かこう見たんですけど。

やっぱりそういうふうな事故があつてからでは遅いので、ぜひ、逆に地域にボールを投げてください。我々、松尾議員さん、私がここでこういうんですよっていうのもありますけれども、ぜひ地域、例えば集会のとき赴いて、こういうふうになりますけども何か要望とか御心配ないでしょうかっていう形でぜひ話を聞いていただいて、それを反映していただければと思います。

何度も、何度も、ここで言わんざいかんわけですね。ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

では続きまして、最後、教育です。

教育、武雄軍団秋田を駆けるっていうのは、これちょっと竿燈のこと余り触れませんがって言いながら載せたんですけども。

教科書問題というのは昔から私何度もここで取り上げていました。

歴史教科書、中学校、小学校の歴史教科書で元が攻めてくるのは、兵を派遣したのに日本から行ったときは侵略という言葉を使っている。日本の教科書なのに孫文を調べなさいって出てくる。そういう教科書を昔、武雄は使っていたので質問して、——何ていうんですか、教科書選定委員会の名前を列挙してくれって、その中の議事録を出してくれということでも何度も言ひまして、実際、秘密会っていうのはそのままなんですけれども、教科書の選定自体は私が見たところ、まあまあいいんじゃないかっていうふうな感じで、特にチェックするところはなかったような気がしますし、もう一つ、例えば公民ですね。

公民の教科書でも、例えば憲法9条っていうのは、憲法改正というのは今、物すごく話題になっています。例えば公民の記述一つでも、公民の教科書に9条がありますので、自衛隊は違憲という意見もあるとかいっぱい書かれていたら、それを見ていた生徒は違憲かなと、違憲という意見も多いのかなと思うわけですね。

それ、いい悪いは別として、その個人個人が9条というのはいろんな思いがありますから。ただ、子どもたちにはきれいな心できちんと教えなきゃいけない、公平な立場でですね。ぜひそういう教科書の部分でやっていただきたいという質問をよくやってまいりました。

きょう竿燈の話、余りしないと言ひながらも、竿燈で上田議員さんが一番聞かれたのが、この次いつ来つとというのが聞かれたっていうふうに言われていました。猪村議員さんもそういうふうな話がありました。

私がよく聞かれるのは、何で秋田から武雄に来つとというのがよく聞かれました。

今度こうやって武雄市歴史資料館でやられました。

例えば、副読本、——例えばじゃない、さっき答弁されましたね、副読本の話。猪村議員

さんのところで答弁されましたよね、副読本の話。副読本、答弁されましたよね。副読本をぜひローリングしてもらいたいって。

さっき言いました自衛隊の問題じゃないですけども、武雄を愛する心を、きちんとこういう、武雄はすごかったんだっていうのを、ぜひ副読本でローリングして載せていていただければと思います。

当時、……（発言する者あり）ローリングいかんですね。見直してください。見直してください。ありがとうございます。見直してください。

例えば1回つくったら終わり、1回重版したら終わりじゃなくて、やっぱりそういうところもきちんと変えていく。

例えば今度、秋田のほうであったら、歴史資料館でしたら終わりだよじゃなくて、やっぱりきちんと副読本の中でページをつけていただきたい。

例えば当時、武雄藩というのは日本最強の軍隊でした。軍団でした。

当時、——この前、維新博の150周年のときに何とかっていう大学の、——すみません、忘れました——教授が言われましたけれども、武雄藩の兵士はヨーロッパの精鋭部隊をも撃破すると、そういう言葉が使われました。

武雄藩が秋田に入ったときには、秋田の人々はそのすごさにみんなびっくりされていたぐらいという。やっぱりそういうのがあれば、やっぱり地元の子どもたち、武雄で生まれ育った子どもたちは、やっぱり誇りに思いますよね。その軍隊が強いから云々じゃなくて。

例えばこういう話もあります。

戊辰戦争、この秋田で捕虜になった方が2人いらっしゃるんですね。捕虜になった方が2人いらっしゃる。終わってから解放されて帰ってきた。1人は大草野の人でもう一人は若木の人だった。やっぱりそういう話もあるんですね。

当時、秋田の横の庄内藩。庄内藩というのは東北最強といわれた中の、庄内藩でやられた。それを武雄藩はそこから守り抜いたと。武雄藩が2週間来るのが遅かったら秋田は全滅していただろう。そしたら、今の我々はいなかっただろうと、そういう話も出ています。

そういうところをぜひ副読本にも入れてもらいたいですし、さっき私が、その前に言いました、各町のお宝っていうのもいろいろあると。ジラカンスもあれば風穴もある、おつぼ山もある、八天桜も、そういうふうな各町の、そういうお宝になるだろうというのも、やっぱりそういうのも載せながら、武雄の子どもたちに、やっぱり武雄に自信をつけてほしい。

どこかの国会みたいに、日本のこと本当思ひよんしゃあとかないようなあいじゃなくて、やっぱりきちんと、——武雄の子どもたちの教育とか何とかするときには、武雄の子どもたちに武雄というものを誇らしく、そして自信を持てるような教育、教え方をしていただきたいと思います。

この副読本、ぜひそういうふうな使い方でやっていただきたいんですけども、いかがで

しょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

副読本という言い方で先ほど申したんですが、今現在、子どもたちが3年生以上で使っているのがこの「わたしたちの武雄市」（資料提示）。この中にももちろん、今もお祭りをしていただいている前田伸右衛門さんとか、それから、松尾静麿さんまでですね。そういう形でこれまでも載せてきました。

先ほどの質問でお答えしましたのは、ちょうど150年で、その幕末期に焦点を当てて副読本をつくろうという、これを進めておりまして、これで今お話にありましたように、武雄の歴史を振り返り、子どもたちの自信につながる、誇りを持てるようなそういう副読本を新たに作成しようということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

通告にですね、やっぱりこういうふうな武雄の歴史をきちんと子どもたちに伝えていただきたい、そういう中での副読本とかそういうやつをぜひお願いしたいんですけども、これを質問に出しますよと、出しておりました。

ぜひ実現していただきたいことを願ひまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で18番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、14番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

（全般モニター使用）14番、宮本栄八です。新庁舎になって初めて一般質問をさせていただきます。できるだけわかりやすく、スピーディにやっていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

まず、項目はいつもの5項目です。

まず最初に、アセットマネジメントの関係です。

まず、これまで樋渡前市長さんのときにはところてん方式っていうことで、大型事業めじろ押しと、どんどん済ませていくということだったと思います。

それが途中からアセットマネジメントということで、総合的に管理するというので、それも2、3年、2、3年とか言われてもう3年以上たっているんじゃないかなというふうに思うんですけども、まずそういう総合計画を立てますということだったわけですね。

それで、しかし新規の建物の分はどうするんですかという疑問が湧いて、その統合計画というのが必要じゃないですかというのをちょっと私は言ったんですけども、それについて明快な答えは今、私はちょっともらっていない気がします。

そんな中でどういうふうに進んでいったかと。アセットマネジメントっていうことが一つの、前進のための、ある意味、障がいの的なことでもあったのかなと、阻害要因でもあったのかなと。

そんな中で、庁舎とこども図書館が別途進んでいったわけなんですよ。あら、そうしたらどうなっているんだと。30%、40年間で減らさなくちゃいけないって。減らさないってやっているのに逆に総面積はふえているという状態が今の状況なんですよ。

それで、ちょっとこれは私の新聞の中で、どういう建物があるかというのを決算書から書き出して市民の方にお知らせしたりというような格好をしているんですけども。

結局ですね、今の状況は、新体育館については副市長の特命事項、その他は総合管理計画ということになっているんですけども、その後、途中情報というのが全然ないもので、今どういうふうになっているのかわからんし、2年ぐらいだったら、いつの時点でこんなものが出ますよと、それから市民の方にお話ししていただきますよと、そういうところがもうちょっと明確になっていないといけないんじゃないかなというふうに思います。

そこで、この2つについて、いつ、どんな内容が出るのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

アセットマネジメントの個別計画についてでございますけれども、平成31年度末を目標に個別計画の策定を行うことにしております。

現在、各施設の所管部署によります施設別の評価を実施しておりまして、これをとりまとめて、それから、関係団体、関係組織とも協議の上、具体的な整備方針など、その対応策と時期を調整してまいりたいと思います。

31年度末を目途に完成をさせ、その後の公表という計画であります。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、31 年度末から文化会館についても考えなくてはいけないということになるんですかね。

その一方ですよ、新体育館、これについては、いつになるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

体育館につきましては、大型施設でございまして、別立てで特別なプロジェクトチームをつくって今、検討を重ねているところでございます。

完成の時期等については、まだ未定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたらその、結局ですよ、別立てなわけでしょ。だから、その面積というのは結局ですよ、まあ、その面積っていうのは今度の、——今はずっとふえる一方ですよ、結局、庁舎も新庁舎できたけど、前の庁舎を潰してないので面積はふえていますよね。もともと新庁舎の分は含めていないところで 40%出してきているわけなんですよ。

そしたら、この新体育館についても、減らすという、面積を減らすことになってからできるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

面積につきましては総合調整でございますので、この新庁舎ができて、また、旧庁舎が解体される、そして体育館ができる、総合的な全体的の面積の中で考えていく必要があると予定しております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、お尋ねします。

そしたらもう、私が最初に疑問に思っているですよ、この 40 年間、30%というのは今の建物から算出しているんですよ。新しい建物は建てるんですよ。建てるとしたらどうふうになるんですか、その 30%。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

保有する全体面積を30%削減するというような目標を立てておりますので、新しく建てたものはプラスして、それから、削減すべきものはこれから個別計画を策定する上で調整をしていくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

わかりました。

そしたら、今の単に8%減らすとか0.8%減らすじゃなくて、めり張りをつけるっちゅうことですね。

そしたら、一方ですね、こっちの住宅のほうも、今、学校を全部建てかえていますので、ほとんど建てかえていますので、今度の主な、その面積を占めるのは住宅になるんですね。だから、住宅についても方針を決めてスタートせんといかんと。

特に小原・高野は戸数も多いですよ、大野住宅と違って。だから今度の建設についても減らすようにしてるんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

今度つくりなおします小原・高野の統合住宅については、現在の戸数から減少するように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたらまあ、小原・高野については、一応そのハードルを越えていくっていうことに、まあなるのかなと思いますけども。

その住宅全体がざっと計算すれば60億円ぐらいになるとですよ。1世帯当たり1,200万円とか、1,500万円がかかるで、戸数を計算するとですね。

すると、私はもう大きく、もともとのストック計画、前回のストック計画、31年までの計画には、その民間活力とか、前みたいに住宅供給が戦後の住宅供給じゃないので、セーフティネットだけに限るというふうなことで、この30、50、60億円を30億円ぐらいにできんかなと思ったりもしとるわけですね。

そしたらその分、別の建物が建てるということになるんですけども、この住宅契約についてはどうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

高倉まちづくり部理事

○高倉まちづくり部理事〔登壇〕

今後の住宅の建てかえ方の考え方ですが、平成 29 年 3 月に策定されました武雄市公共施設等総合管理計画に住宅整備について記載をしております。

耐用年数を超える住宅は、基本的に用途廃止か建てかえをゼロベースで検討し、適正な戸数の維持確保を目指すということになっております。

今後はこの基本方針に沿って進めてまいりたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

一応ゼロベースで考えるっちゅうことですね。よろしくをお願いします。

そういうことで、何ですかね、民間借り上げとかそういうとでも、結局、今度建てれば鉄筋ですから 70 年先までの管理になるわけなんですよ。

まあ大野の場合には木造ですので 25 年とか、今度の大野は 25 年ぐらいでいいとですけども、今度、建てかえれば 70 年ぐらい、60 年、70 年していかなといかんもんで、その辺よく考えていただきたいと思います。

そして、例えばこの赤尾っていうのは県営の武雄住宅と一緒にですけども、以前も言いましたけども、武雄住宅の県営のほうは用途廃止になりますよね。だからそういうのもありますし、逆にその土地を買って広くするという方法もあるかもしれませんけれども、ゼロベースで考えるということですのでよろしくお願いします。

続いて、庁舎の管理等です。

庁舎がつくられるとき、計画されるときから、担当の職員さんには、まあそれ以前かもしれんけど、今度新しくつくったら、その時点でそういうエネルギーとか、電話とか、そういうの入札をしていかなといかんということで、まず建てるまでは忙しいのでそれは言いませんからっちゅうことでしてたんですけども、まあこういうふうに建てたと。

そして今、アバンセのホームページを、知り合いが講演会を開くということで見たら、いきなり素人の人にも電気入札のことがぱっとこう出てきたわけですよ。ああ、こんなに一般の人にも見えるような形で公募してあるのかなってちょっと思ったわけなんですよ。

それで、また一方、この間、議員さんのお話にもあったけど、地域エネルギー会社ですね、みやま市みたいな、地域エネルギー会社、それは自分たちで太陽光をつくと同時に、電気の卸売りをする会社をつくって、そこでもうかったお金を町民のために分配するといかんんですけども、それで奉仕するというような格好なんですよ。

だから、逆に言えば武雄市がその地域エネルギー会社じゃないですけども、そこで入札で浮いたお金を、高齢者福祉とかですよ、そういうのに使えば、同じことじゃないかなという

ふうに思うんですけども。

この辺の電気とか電話とか、まあインターネットもあるかもしれませんが、その辺の入札についての武雄市の取り組みをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

電気、電話の料金の関係で入札をしてみてもというふうな御提案だと思います。

新庁舎の電気につきましては現在、九州電力との契約でございますけれども、これは入札を行ったものではございません。

新電力会社を含めた入札につきましては、新庁舎の使用実績がありませんので、条件が示せませんので見積もりが難しいといった状況であります。最低でも、この1年の使用実績を見てから入札を検討していきたいと思います。

それから、電話回線につきましては、旧庁舎から新庁舎への回線の移設切りかえをスムーズに行う必要があったこと、これに加えて、電気料の見積もりにおいても、一番安かった西日本電信電話株式会社と継続的に契約を結んだところでございます。（134 ページで訂正）

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

インターネットのプロバイダ関係も強いて言えば、相当の金額あるんでしょ。そこをちょっと私よくわからないんですけど、そこについてはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

水町総務部長

○水町総務部長〔登壇〕

先ほど私、電話料を間違えまして、電気料と発言しましたが、電話回線料の間違いでございます。

インターネット料につきましても、この電話回線とあわせて考えてまいりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。

それで、その浮いたお金ですね、それはもう返さないで住民に生かすような形で使ってもらえれば、地域電気会社をつくったも同然だからですね、よろしく申し上げます。

次は I T 化です。

ちょっと出ておりましたけども、ワンストップですね、なるっちゃうことで、まあすごいなっちゃうか、まあ当然なのかもしれませんが、それで何か職員さんが次々にやってくるということで、あら、と。

そしたら、その職員さんがぱっとかかったら、また出ていかんといかんし、いいようで、よくないようで、ちょっとよくわからんなっちゃうことで。

前、黒岩元議員さんが言われていたですよ、3次元検索やったですかね、その一点のどこを、こうどっちからでも、黒岩元議員さんが言っておられた、3次元検索っていうですかね、1つのところをどっちからでも見て、すべてのあれがこうできるような自治体というようなことを言われて、そのことを聞いたときには、ちょっとまだあれかなっていうふうに思っていたんですけども、そういうワンストップになってくれば、まあそういうことなのかなと。子育てのほうからと、入居手続とか、ずっとこうなるのかなっちゃうふう思うんですけども。

その人海戦術をIT化にできんかなと。それで、もっともっとよく包んで言えば、転勤してきた人はまず水道をつけるとですもんね。しばらくしてから転入手続をすると。極端なことを言えば、水道の開栓に行った方がもうすべての処理をできるという時代も来るとやないかなっていうふうに思ったりもですね、まあしてるんですけども、まずは、そのせっかくIT化でワンストップはできないものかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

岩瀬福祉部長

○岩瀬福祉部長〔登壇〕

ワンストップのIT化をというお話でしたが、まずワンストップ行政ということで言われていますのは、転入転出並びに転居、それと出生、死亡、婚姻、離婚とか、そういう部分のライフイベントに係る分をワンストップという形で行っております。

今までは、従前は転入された方が各課を回って手続をされていた。これを転入された方が1カ所に座っているだけで、周りの担当者が出向いてきて、専門的な知識で手続をするということで、ワンストップ化ということで行っております。

その中で、IT化と言われますが、現在、専門的ないろいろ情報等がありますので、そこは人海戦術で、本人が動かなくていいような形での、まず、お客様の利便性を第一に考えた対応を今のところやっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

今やってるっちゃうのはわかってるんです。そやから今後、それを人海戦術じゃなくてですよ、ITでしたほうがいいんじゃないですかというふうに提案しているんですけども。

今のところ、ちょっと今からちゅうことを理解してですよ、それで私もどっちかって言えば、武雄のほうからずっとして行って勉強して行って、最初はインターネットを見て勉強すればよかったんですけども、最初は、あら、人がぞろぞろやってきてって、いや、ちょっと前近代的じゃないかなと思ったところからスタートしまして、ずっと勉強したわけなんですよ。

そしたら、どこの自治体も、国のIT自治体計画みたいなやつをずっと下に受けて行ってですよ、各自治体でそのIT化といのを図られているちゅうことがわかったわけなんです。

そこで、よそのやつを見るとですね、証明書発行とか、あと、市民から意見を聞くのもこのネットというかIT。そして、牟田議員がよく言われる、地域の高速情報拡散みたいなやつもここで処理してやって、観光も、災害も、教育も、庁舎の夜間対応も、申請も、施設の予約も、そういうふうなことに進めて行ってやるちゅうことで。

その事例的にはこの、ICT活用による便利な市役所推進計画は佐世保市なんですけども、ここにいっぱいいろんなことが書いてあります。総合型GIS、公開型GISって、もうその意味すらちょっと分からないんですけども、いろんなことをしますよと。

そして、このワンストップサービスというのもそこに書いてあって、1カ所でせんばいかんと。これも、——ITでって書いてなかですかね、——まあITですというような格好になっておるわけなんですよ。

ですので、今後、まずここは、IT計画というのをまず立ててやってですね、それで個別、これはできます、これはまだ採算が合いません、これはどうですという、こう理由をずっと書いてあるんですよ、進み具合のところですね。

だから、採算が合わん時期はあると思うんですよ。今はコンビニでの発行業務、採算合うのか、合わんのか、してる自治体もありますよと。でも、そういうところも、今の考え方を書いてありますもんね。

だから、そんな格好で、まずはIT計画というのを武雄市でも進めているのか進めていないのか、その辺ちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀企画部長

○古賀企画部長〔登壇〕

ITの利活用についてでございますが、広報課において、機器のシステムの経年変化による更新、また、法改正等、情勢の対応のほか、新たなシステム導入に関しての計画については必要であるというふうに考えておりました、現在、既に調整を行っているところでございます。

ただ、このITの利活用につきましては、財政状況等も厳しくなる情勢の中で、システム導入につきましては相応の経費等も必要となります。適切なコスト計画を踏まえた上で、市

民サービスの向上や業務改善等につながるものでなければならないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

まあ武雄市でも考えてあるということ。

先ほど言いましたように、佐世保のほうでも、これは今、採算に合います、これは何ですってということが書いてありますので、すべてIT化すれば安くなるというふうにはならない、それは時期、時期っていうのがあると思いますので、まずその立てて、次はこれに取り組んでみよう、次はこれに取り組んでみようというような格好でやっていただけたらというふうに思っています。よろしくをお願いします。

そして、その手続っていうのですかね、今度は、今、山内、北方には窓口的なものは残っていると思いますけども、それもいずれ廃止するかもしれんっていうことですので、それまでには、コンビニとか何とかでできるような形でできるようにしていただきたいなと思います。

次、市内の道路整備です。

大体、道路整備を主に大きく分けると、国の補助金を半分もらってするタイプと、単独でするタイプっていうふうに2種類になると思います。

大きな事業は移転補償費とか何とかありますので、自分の単独でできんと。そして、補助金を利用してするというふうな格好ですね。大きな道路っていうことになります。メインの道路っていうことになります。

旧武雄市のときには2本ぐらいをずっと交代、交代っていうんですかね、計画、実行とかいう形でしてて、新市になってから3本ぐらい立ててるのかなっていうふうに思うんですけども。

今、新武雄病院の横から花島のほうに向かう小楠永島線、そして、ニトリさんたちの裏のところの道路ですね、それが梶原楠町線っていうんですけども、そこがやられております。

そこについてはどっちかっていえば今、開発したやつの後始末って言ったらいかんですけども、ニトリさんたちができて裏から出る。裏から出ると歩道もないといけん。いけんとなればさっつつくらんといかん。大きな道路だから補助金タイプになると。こういうふうな感じで、ずっとこう押されて、押されてちゅうことになりますけども。

私としてはもっと武雄の将来を見据えた道路っていうのも先行してやっていかんといかんじゃないかなというふうに考えております。

それで、この2つについてですね、大体3本あったと思いますので、あと1本はどういうふうなお考えなのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

現段階におきましては、交付金を活用した主要道路整備事業の計画はございません。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

ないってことですので、ぜひともですね、——まあ補助金をもらってつくったほうがいいわけなんですよ、極端に言えば。その自分の出すほうが今、合併特例債がないので、ちょっとこっちをもう用意するのも大変かなというのがありますけども、でも単独でするよりも、もうはるかにいいわけでありまして、それをしてほしいなというふうに思っています。

それで、一つの私の考えとしては、新幹線の複線化っていうのがあって、今は高架で、ある程度、踏み切りを越えていますけども、今度、新幹線で複線化すると踏み切りが改良できると。というのはもう、何十年に1回というか100年に1回ぐらいの線路のいじくりとかですね、改造になると思います。その辺で、そこを捉えて計画をしていかんといかんじゃないかなちゅうふうに考えております。

そこで、どこをどうだというふうに、ちょっと私の提案としては、今ここから南に、小楠永島線というのをここの浄化センターのそばにつくって行って、まあ橋ができれば一部開通させますというふうなことなんですよ。

それと、梶原楠町線っていうのはここで、ここに水路のあったやつを武雄市と開発でここを廃止して、こっちを道路を大きくするって、まあいい考えなんですよ、はっきり言ってですね、すばらしいと思います。

それで、新たにもう1本入れとかんと、この辺がこれで手詰まりになるんじゃないかなというふうに思いますし、今こっちにも商業施設があるので、ここの行き来が結構ふえております。

まあここは、信号機は六田の信号機っていうかも、信号機はたくさん国道つくれませんので、信号機というか、交差点つくれませんので、六田の交差点っていうのがあって、皆さんがこう、くにくに曲がっていております。

この自動車学校のほうは、これまで片側通行だったんですけども、今は両方通行できますので結構利用は多いです。まあここになるんですけども。

以前も言いましたけど、この先に1級旧市道があるんですよ。でも、これが余り活用されてないです、実際言って。ここの出口が狭くなっているっていうのもありますし、こっちからも思うように来れないっていうことがありまして、活用されていないので、1級の線というのは余りないんですよ。

だから、それを有効に活用するためには、ここの沖永の踏み切りのところを、この新幹線

絡みのときに広くして、向こう側の道路、この1級道路のほうにつなげていったらどうなのかなっていうふうに——向こうが1級道路でしたよね。こっちを、ここがどういうふうになっていますかって、——これはまあ六田のところから来るんですけども、これはゼンリンで見ますと、ここがこう極端に狭くなっていますね。

だから、ここの改造と、ここも狭いですので、この1級道路を生かすためには、こっちをこうつなげていかないといけないんじゃないかなというように思います。

ほかに方法があったらいいんですけども、私はこの辺に1本いるだろうというけど、この交差点は自由につくれない。そしたら、六田の交差点を利用するしかない。こっちの出口の踏み切りは今ここしかない。新たにこっちに踏み切りをつくってもいいですけども。

○議長（杉原豊喜君）

宮本議員、ここの、ここの、あそこの。

○14番（宮本栄八君）（続）

あすみません。すみません。早く言ってください。

○議長（杉原豊喜君）

あそこの、そこのって、そこが全然場所がわからないので答弁のしようがないと。

○14番（宮本栄八君）（続）

はい、わかりました。

六田の踏切のところから北に上って、自動車学校のところに通るような格好が今ちょっとできる可能性があるところかなと思うんですけども、この東部にもう一本道路をつくるという考えについて、どうお考えかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

モニターが小さ過ぎて、どこを示されているか、すみません、よくわかりませんでしたけど、私の解釈で、自動車学校横の踏み切りのお話をされたかと思います。

将来的には複線化がなされるかと思いますが、現時点では複線化は高橋駅から大町間というふうに聞いておりますので、将来、複線化になったときには、道路の幅員に合わせて踏み切りの改良は行っていきたいというふうに考えております。

また、新たな六田から真っ直ぐ抜ける道っちゅうことでも言われたかと思いますが、それにつきましては、今のところ全く考えはございません。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、私はこっちに1本必要かと思いますが、東部のほうにもう1本必要かと思

いますけども、この踏み切りについてはもう改修はできないっていうことですかね。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

先ほど申しましたとおり、今、写真に写っています道路につきましては2車線といいますか往来できるような幅員になっておりますので、踏み切りだけが狭くなっております。

武雄市の考えといたしましては、今の道路付近までは踏み切りも広げていきたいっちゅうふうで、今後、機構と相談してまいりたいっちゅうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

この付近まで広げて、考えを持っているっちゅうことで、それで私はまずは十分なんですけども。

その部分と、この行き来ですね、南北の行き来をもうちょっとしたら皆さん便利じゃないかなっちゅうふうに思いますけど、それはまた皆さん、執行部のほうで考えていただいて、地域の要望を聞いた中でやっていただきたいと思います。

それにも増してもですね、もう一本くらいは将来を目指した計画ですかね、そういうのもあっていいんじゃないかなと思います。それはここの踏み切りじゃなくて、掛橋の、北方の掛橋の踏み切りの辺でもあれかなと思うんですけども。

そういう部分でその踏み切りをこの際、再点検して、そこに道路が必要なのか、必要じゃないのかを地域と話していただいたらいいかなっていうふうには私は思います。よろしく願います。

続きまして、それで、国、県のことについては、バイパスが猪村さんのところで答えて、5,000 万円だったですかね、ついて調査費と計画費がついてるっちゅうことで、国道 498 号については、ちょっとわかる範囲で教えてもらえますか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

午前中にも申しましたとおり、ことし中に北方の一部の区間におきましてルート発表がなされると思います。

その後、平成 29 年からの計画でございますので、5 年間、平成 34 年を目途に、完了に向けて杵藤土木事務所のほうで事業されるかというふう聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

34 年ぐらいにはできるっちゅうことですね、わかりました。

そしたら、これは飛ばしてですね。

競輪場についてです。

競輪場についてはいろいろ言ってきましたけども、あとはメインスタンドの建てかえ、そして次が、隣接する部分じゃないですけども、付随する部分として宿舍の建てかえ、検査場の建てかえっていうのがあります。それについても、前の部長ですかね、理事が、ある程度つくるような答えをされていたと思います。

そこで、武雄のほうも早くしたほうが良いと思うわけですね。別に、これをずらしていメリットも何もないですし、ここに書いてある別府では両方同時にされていると思います。

それで5億円ぐらいかかっている、別府で5億円ぐらいかかっているんですけども、10年で払えば5,000万円程度っちゅうことで、本当の耐用年数からすればもっと2,500万円ずつ払ってもいいと思うんですけども、だんだん、だんだん、どこでも近代化してナイター化してくるので、採算がずっと10年後はわかりませんので、できるだけ早く返したらいいかなっちゅうふうに思います。

そこで、早く建てかえてほしいということと、最初は改築でもいいんじゃないかなというふうに思いました。内装を変えてですね。

しかし、いろいろ考えていくと、小田原競輪みたいにスポーツ合宿にも使えばですよ、結局、以前から武雄の運動施設と合宿ということを言われてましたので、スポーツ合宿に利用すればいいかなと。この4,000円・2,000円というのは、一般の方4,000円で、市町っていうんですかね、こっちの自治体の方は2,000円っちゅうことになるんですけども。

そういう形で、現在がこういう建物なんです。そして、一部12レースになったとき、こっちに平屋が建って増築されています。中はまあこういう形で4人が1部屋になって畳が敷いてあるんですけども、畳もまあ赤くなっているということで、畳がえ等あれでもいいかなと思うんですけども、将来的にまた合宿とか考えればつくりかえたほうがいいかなと。

ここが自転車検査場で、ここで検査します。その上に、スタート前にその大広間に待機するというふうな格好になっておりますので、……（発言する者あり）競輪課に言って撮っておりますので。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○14 番（宮本栄八君）（続）

そいけん、別府競輪のほうはこういう建物です。新しい28年に。こっちは小田原のサンサンヒルズっていうところの合宿をしているところなんですけども。

私とすれば、早急につくりかえてもいいんじゃないかなと思いますけども、競輪課の計画

はどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾営業部理事

○松尾営業部理事〔登壇〕

お答えいたします。

選手宿舎、車検場等の改修に係る計画ということでございますけれど、現在、28年3月に基金の設置をいただいております。積み立てをしております。そういうことで、目標としては10億円ということであります。

計画的には、早ければ、平成31年度で基本計画等をしていきたいというふうなことで思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

できるだけ早くしたほうがいいかなっちゅうふうに思います。

そして、改造にするのか、私が言ってますような、そのサンサンヒルズみたいな合宿にするのか、そこは私、提案してるんですけども、それはもうそちらのほうとか、選手会とかと話し合われて、早くしたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

そして、次はお客様サービスの件です。

以前から、大型モニター必要じゃないですかっちゅうのはずっと言ってきました。しかし、そのときも建てかえるのが優先で、モニターは後でもどうにかまだ耐用年数もあるのでってということで言われたので、そこはそこでもう言わずにありました。

そこですら、今、映画館がネットフリックスって言って、まあ配信ですたいね。そういうところで、結局、——まあ小さいところは潰れていってるということで、今の映画館は、映像が正面だけではなくて横にも出てくるとかですね、音声が高レゾですかね、そういうのになって、そういうふうに集まるところはそれなりのグレードアップをせんといかんっちゅうふうになってきているわけなんですよ。

それで今度は、サッカーのコロンビア戦を庁舎のほうでやられると思いますけども、庁舎のほうは55型ぐらいが10台あるんですね。だから物すごいでかいですよ。

でも、武雄の競輪場は80型なんですよ。普通この競輪場とかボートの場外行けば、大体ここの壁にある程度いっぱい、いっぱいモニターがついています。こんな上だけについているようなところは、余りありません。だから、もうちょっとでかいやつに変えてもいいんじゃないかなと。

結局、普通の、オッズを見るやつは40型とか50型ですもんね。40型っていえば、まあテレビで映れるかどうか知りませんが、あの画面の白い部分ぐらいが40インチですよ。それ

が9車は9車でこう縦横に数字がわーって並ぶわけなんですよね。だから、結構見にくいです。そして、久留米なんかもう建物は古いですけども、モニターは100ぐらいあります。

そういうこともあってですよ、もうちょっとお客さんを集めるためには、最低52型ぐらいだったら家のテレビとほとんど変わらんですもんね。それを近くで見れるわけなんですよ。

でも、この52型を結局17、8メートル後ろから見るわけなんですので、最低家で見るとよりも大きなね、まあこの60型ぐらいは必要じゃないかなというふうに思うんですけども、これについての考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾営業部理事

○松尾営業部理事〔登壇〕

メインスタンド、ステージの上には2台の大型モニターを設置しております。この大型モニターは80型でございます、横180.9センチ、縦104.9センチの大きさの液晶モニターでございます。

ステージのほか、ステージの周辺につきまして、お客様に御満足いただける情報を提供するために、オッズ用のモニター40型ですけど4台、それに実況用のモニターとして40型1台、それに開催場の表示画面ということで24型を1台ということで、以上6台をワンセットという形で設置をして情報提供いたしております。

限られたスペースに設置している状況でございますので、現在のところさらなる大型化は考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

いやスペースがないって、スペースあるじゃないですかここに、がっばい。スペースがないっちゃうのは、おかしくないですかね。

結局、武雄市役所のほうは50型が10台連なって500インチかなるわけでしょ。

だから本来、——以前はサッカーのパブリックビューイング、競輪場でやってたですよ。でも今度、市役所のほうがよく見えるっちゃうわけなんですよね。

もうちょっとそこは考えていただかないと、商売人から考えるとですよ、何で——60万円ぐらいですかね今、80型ぐらいだったらあそこに売ってあるですよ、ベスト電器にも展示してありますよね。100型ぐらいまでであると思うんですけども。

だからそこをけちってですよ、置けない、場所がないっていうことですけど、いや置けますよ、はっきり言って。

こんなところもありますし、ここの間もあと1台分っていうか、半分ぐらいあいてますよね。だから、スペースがないからっていうことについてちょっと納得できませんけど、もう

一度いいですかね。ないですかね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾営業部理事

びしゃっと言うたほうがいいよ。

〔14番「びしゃっと言われんでしょう。スペースあるとやけん」〕

自分の考えで言いよんさあとやあけんがびしゃっと言って、執行部の考え言ってくださいよ。

○松尾営業部理事〔登壇〕

お答えいたします。

限られたスペースということで思っております。そういう状況で設置をいたしております。

また、メインスタンド、そして、走路等のリニューアルということでしましてから、まだ2年もたたないという状況でもございます。

そういうふうなことから、今後またいろんな競輪の情報提供のやり方も、タブレットというふうなものに移っていくというふうなお話もある状況でございまして、そういうふうな今後の動向等も見て、考えさせていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

だから、これを捨てなくていいんですよ。これを横つつらにつけて、ここに新たにつくればいいって。

それこそオッズパークさんっていう、そういうサイネージを提供しますとか何とか言われてるわけでしょ。それで、オッズパークさんをKドリームスじゃなくて、——Kドリームスは楽天ポイントあげますよと。だから、こっちのオッズパークさんのほうは、サイネージとかそういうのをこっちはあげますよって、そういうことでそっちを選んでいるわけなんですよ、サイネージ絡みで選んでるわけなんですよ。

だからちょっとぜひとも、何ですかね、お客さんにアンケートか何かとってもらってニーズを、自分たちで考えるんじゃないかって、ニーズを捉えてやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それで次は、傘の貸し出しです。

これは傘の貸し出しのステッカーが250円で売っていますよっていうのは宣伝で、もう一つは何ですかね、自動販売機にみんなのレンタルアンブレラって、まあ貸すのもありますと。自動販売機が武雄市のところにもありますんで、そういうのもどうですかちゅうことですけども。

何でこれを言うかという、結局、第1駐車場までしか屋根がないわけなんですよ。で

も、第1駐車場は公園になってもう第1駐車場ないので、そこから歩いていかんといかんわけですよ。そしたら、普通はコンビニで、傘差してコンビニ入る人は余りいないですもんね。走って、小走りで走る距離は約10メートルくらいが、傘を差さんで小走りに走る大体のラインなのかなと。

しかし、ここまで行くためには30メートルも40メートルもあるわけなんですよ。それで、傘の貸し出しができませんかなということを考えています。

そして、こっちの自転車貸し出しの日が雨の日休みだからですよ、その従業員さんにその辺の傘のセッティング、回収なんかをしていただいたら、公園の管理のお休みのときにできるんじゃないかなというふうに思うわけなんですけども。

またその後ずっと調べてると、どっかの競輪場でも傘の貸し出しというのあってるみたいですよ。だから私が思いついたちゅうよりも、意外とよくあるサービスっていうことだと思うんですけども。

武雄のほうも、傘の貸し出しをしたらどうかというふうに思いますけども。そして、結構4時ぐらいが夕立降るんですよ、はっきり言って。新聞を頭にして、こうたくさん人がずっと下っていくわけなんですよ。

だから、傘の貸し出しについて実施していただきたいですけども、御意見をお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾営業部理事

○松尾営業部理事〔登壇〕

傘の貸し出し等の準備につきましては、人員配置等も出てまいりますので、具体的な方法について検討をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14番（宮本栄八君）〔登壇〕

傘を盗まれるとか、持って帰られるという心配も確かに私自身はあるんですけども、それも武雄競輪とこう書いてあったり、地元企業さんから広告入りの傘だったら、そういうふうに盗まれる率も少ないし、宣伝として二、三百円の傘だったらいいのかなちゅうふうに思います。よろしくをお願いします。

続いて、教育子育てです。

官民一体型学校の今後についてです。

一応30年10月、ことし10月に武雄小学校、32年4月に御船小。今のところは朝自習の時間を利用したモジュール授業ちゅうことになっておりますね。

しかし、今後は英語の必修化とか、プログラミングの必修化とか出てくれば、時間が厳しくなっていきます。そういう時間が厳しくなる部分もあります。

そいで今後ですね、官民一体っちゅうか、私はもう官と民が一体になって、教室に民間の人が入って授業するのかなって思ってたわけですよ。今のところは単に、朝自習の時間に地域の人が丸つけに来て、そこの指導をされるっていう程度なわけで、そこまでびっくりすることはないかなっちゅうふうに思うんですけども。

今後、官民一体となっていけばどういうふうに展開していったって、——以前は授業のほうも民間ノウハウを生かしますとか書いてあったんですけども、ここにノウハウ、——普通の教科書の授業中にも、花まる学習会が——何ですかね、養ってきたですかね、ノウハウを大胆に生かし授業を行いますってこう書いてあるんですけども、今後どういうふうになっていくのかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

びっくりするほどのことないと言うことなんです、実はびっくりしているんです。

恐らく、全国、朝の時間にこれだけ入ってもらっているようなところはないと思うんですね。

花まる学園は、大学生のアルバイトさんが入ってたわけですよ。そのアルバイトさんが、武雄の場合はそうはいらっしゃらない。

そのときに地域の人が入ってもらったということは、恐ろしい成果になっているわけで、区長さん方には大変御苦勞をおかけしたわけですよけれども、昨年度で約8,000名を超える方、——実はある会合で1万人と言ってちょっと集計ミスで、ここで訂正しているんですけど、——8,000名を超える方が6校で入ってもらっている。

花まるの成果だけとは言いませんが、

〔14番「いや、今後のことを言うてください。今後のこと」〕

花まるの成果だけとは言いませんが、この前のように生徒、子どもたちの落ち着ける過程があるわけで。

そういうことで、今おっしゃいましたように、いろんなプログラミングであったり、外国語であったり、いろんな学習の必要性も当然出てきておりますけれども、学校でもいろんな工夫をしながらやっております。これについての研究をしている学校もございます。

そういうことで、今後もですね、今年度10月の武雄小学校、22年4月の御船が丘小学校、

〔14番「その後のことと言いますやなかですか」〕

とで進めていきたいというふうに思っています。

〔14番「その後のことと言いますやなかですか」〕

○議長（杉原豊喜君）

14番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

はい、わかりました。まあ答えられんちゅうことですね。

したら、続いていきます。

次は、教育子育てについてです。

時間がないのですみません。

今、保育所の保母さんの確保ということが言われています。

しかしその前に、今はとりあえず答弁にもありましたように、定員割れ、定員っていうか不足しているところはありません。それで、一応保育の待機者ゼロです。だから今、形的には一番いい状態になってるんですけども、隠れ待機者が存在しているちゅう話なんですよ。

そういうのはどういうものかっていうと、ほかのところに行とって、地元のほうに途中から来たいときにもう来れんかもしれんと、だから我慢しとくと。地元があくまでずっと我慢しとととか、まだ働きたいけど預けられないから働けないで、こう行ったり来たりのことがあるわけですよ。預けないから働けない、働けないから預けない。そういう部分があるわけなんですよ。

それについて解消というんですか、私は保育所の定員っていうのを、そこに行きたいっていうのがあれば定員拡大をすべきだちゅうことで解決したいと思うんですけども、武雄市のほうでは、隠れ待機者に対してどういうふうなことをして、それをなくしていこうって考えてあるのかお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

先ほど、隠れ待機者ということですけど、潜在待機児童の方たちですね。

希望の園を希望された場合、その希望する園に行けないと。そのために、例えば申請を取り下げたり、保護者の方が育児休業を延期されたりというようなケースが実際ございます。

その分の対応策といたしましては、まず何度も言ってますけれども、保育士さんの数を確保して、そこの受け入れ可能な数をふやしていくということが先決になってくるんじゃないかなというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

今でも定員はいっぱいなわけでしょ。だから、今以上には入れられんわけでしょ。保育士さんを確保しても、定員をふやさんと。違うんですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

実際に定員割れに至っていないところもあります。

ですから、そういったところは保育士さんの数をもう少しふやせば、受け入れが可能というところがございますので、まずは保育士さんの確保が先決というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

聞くところによるとですね、年間定員割れしとるところはないっていうふうに、ちょっと私はお聞きしました。4月の時点はなくても、年末に入ってないっちゃうことはないっていうことで、私の認識としてはほぼ今の定員分は人はいると。

そして、まだ入りたい人がいるということは、定員が——以前は朝日の第1と第2を合体するとき将来少子化になるからっちゃうてから、大分減らしましたよね。ばんと減らしました。でも、今少子化になっているけど、預ける人がふえてるっていうわけですよ。

だから、以前に減らしたのは、その少子化で減らしたけど、今度、共稼ぎでふえてるっちゃうことで、前の設定っちゃうのが、ちょっと変わってきてるようなわけなんですよ。

だから、以前は減らすほうだったから簡単に減らせたのか、今度ふやすほうになるとふやしにくいのか、その辺どうなんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども教育部長

○松尾こども教育部長〔登壇〕

議員さんの御指摘は、定員をふやしたらというようなお考えだということですが、まず定員をふやすに当たりますと、市全体の需要、必要量の見込みと供給、現在の定員の状況を踏まえて県に申請、認可をしなければならないという条件があります。

それとあわせて、園児一人当たりの床面積、これも確保しなければならないと。それとあわせて、ふやす分の——何度も言いますが、配置基準に応じた保育士の確保、これが確実に必要になってくるという考えを持っております。

保育士の定数のあり方ですが、この分については全体的な需要と供給、先ほども言いましたように、施設の面積要件、保育士の配置条件、それとあわせて保育者の方の経験年数や専門性などの保育の質の向上、こういったこともあわせて全体的な検討を、総数の決定に際しては全体的に考える必要があるというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

14 番宮本議員

○14 番（宮本栄八君）〔登壇〕

何せ、まずはその隠れ待機者という人数を把握してですよ、それに対する対策をよろしく
お願いします。

以上で私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で14番宮本議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 14時20分

